

令和6年度 第3回徳島県災害時相互応援連絡協議会
次 第

日時：令和6年8月9日（金）

午後1時00分～

場所：WEB会議

1 開 会

2 議 題

- （1）南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について
- （2）第1回災害対策本部会議等について

3 閉 会

令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について

令和6年8月8日16時43分頃に発生した日向灘を震源とする地震について、地震や津波に関する概要や留意事項を別添のとおりお知らせいたします。

本件に関する問い合わせ先

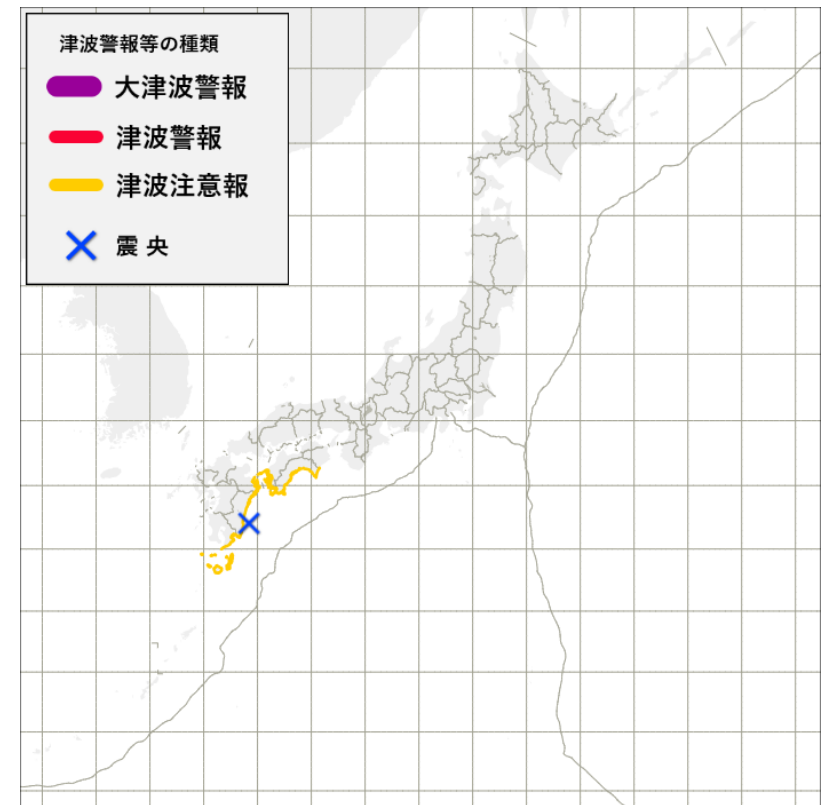
地震火山部 地震津波監視課
電話 03-3434-9041

津波注意報を発表

津波注意報 愛媛県宇和海沿岸 高知県 大分県豊後水道沿岸 宮崎県
鹿児島県東部 種子島・屋久島地方

津波を観測中！
海の中や海岸から離れて！

8月8日16時52分発表



最新の情報は、以下のページでご確認ください。

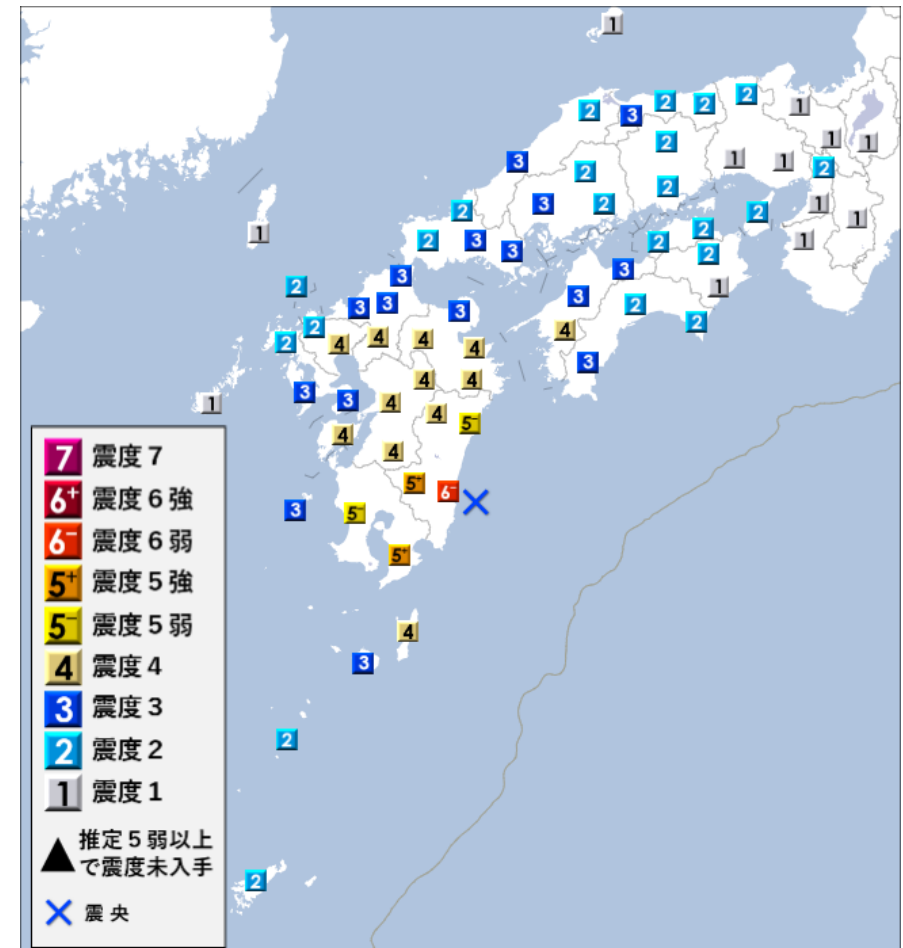
津波警報等の発表状況：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>

震度6弱を観測

震度6弱 宮崎県

(揺れの強かった地域)
家の倒壊や土砂災害の危険
今後の地震や雨に十分注意
危険な場所に入らない！
※1週間程度(特に今後2～3日の間)
最大震度6弱程度の地震に注意

8月8日16時55分発表

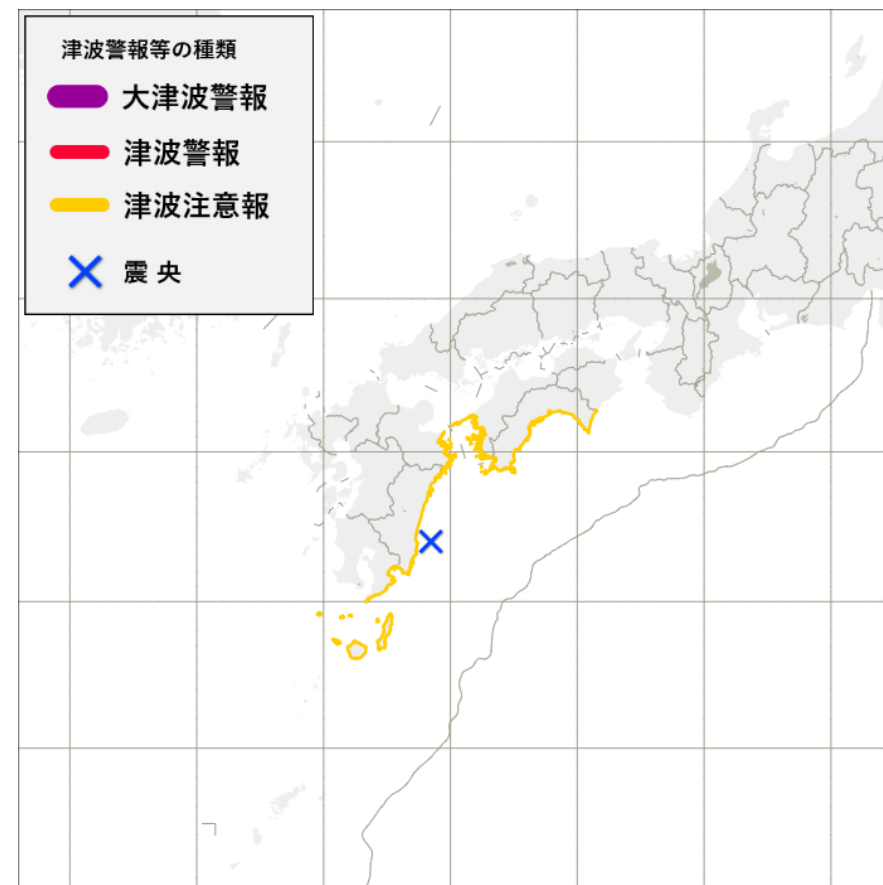


津波警報等の発表状況

津波注意報

愛媛県宇和海沿岸 高知県 大分県豊後水道沿岸 宮崎県 鹿児島県東部 種子島・屋久島地方

8月8日16時52分発表



最新の情報は、以下のページでご確認ください。

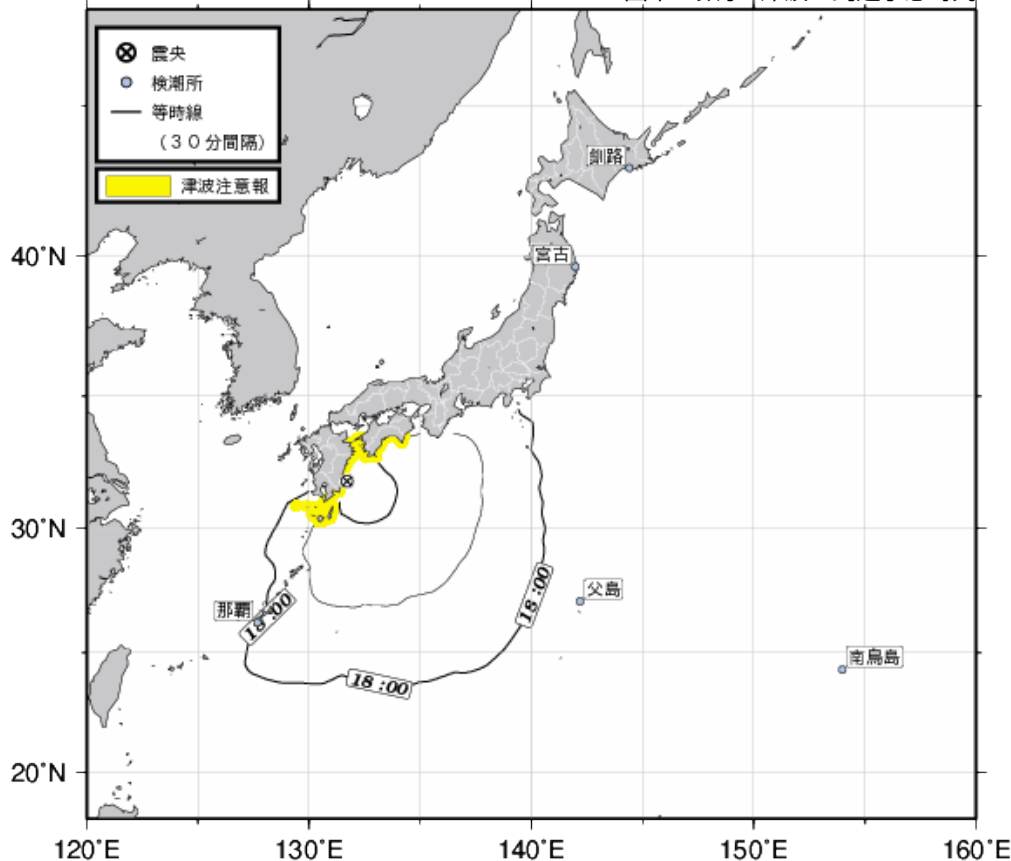
津波警報等の発表状況：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>

津波第1波の到達予想時刻図

2024/08/08 16:42に発生した 日向灘 の地震

08月08日16時52分発表

※図中の数字 津波の到達予想時刻



(津波注意報の発表地域)

海の中や海岸から離れて！

津波は長い時間繰り返し襲ってきます。

第1波より後に来る波が大きいこともあります。

津波警報等が解除されるまでは避難を！

(図の留意事項)

時間が経つにつれ津波が広がっていく様子を単純なモデルで計算し、津波警報等の発表地域への第1波の到達予想時刻の大まかな目安を示した図です。

津波到達予想時刻に関する情報で示した時刻や、実際に津波が到達する時刻とは異なる場合があります。

予想時刻は、日本全国を対象に等値線を描画しているため、津波が到達すると予想されていない地域を含めて表示されています。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

津波の警報等の発表状況:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>

津波の観測状況

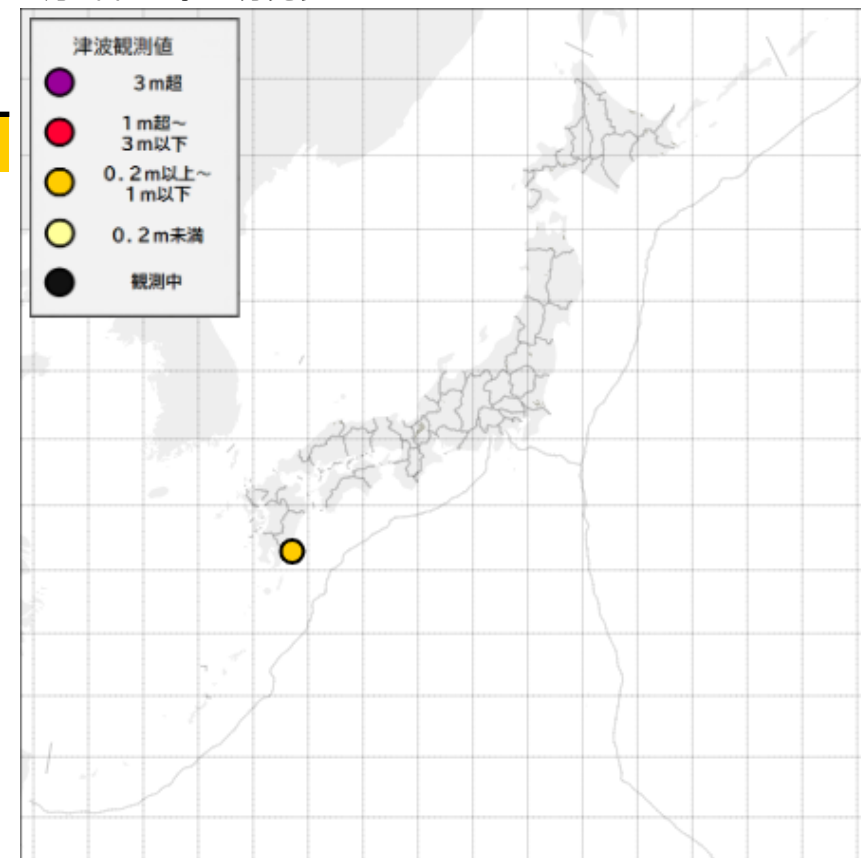
【主な観測点の観測値】

観測点名	該当予報区名	第一波 到達時刻	これまでの 最大波	高さ
日南市油津	宮崎県	--	8日17:01	0.2m

※大津波警報または津波警報を発表中で、観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」と発表します。

※検潮所での津波の高さです。沿岸の地形の影響などにより、局所的に高くなることもあります。

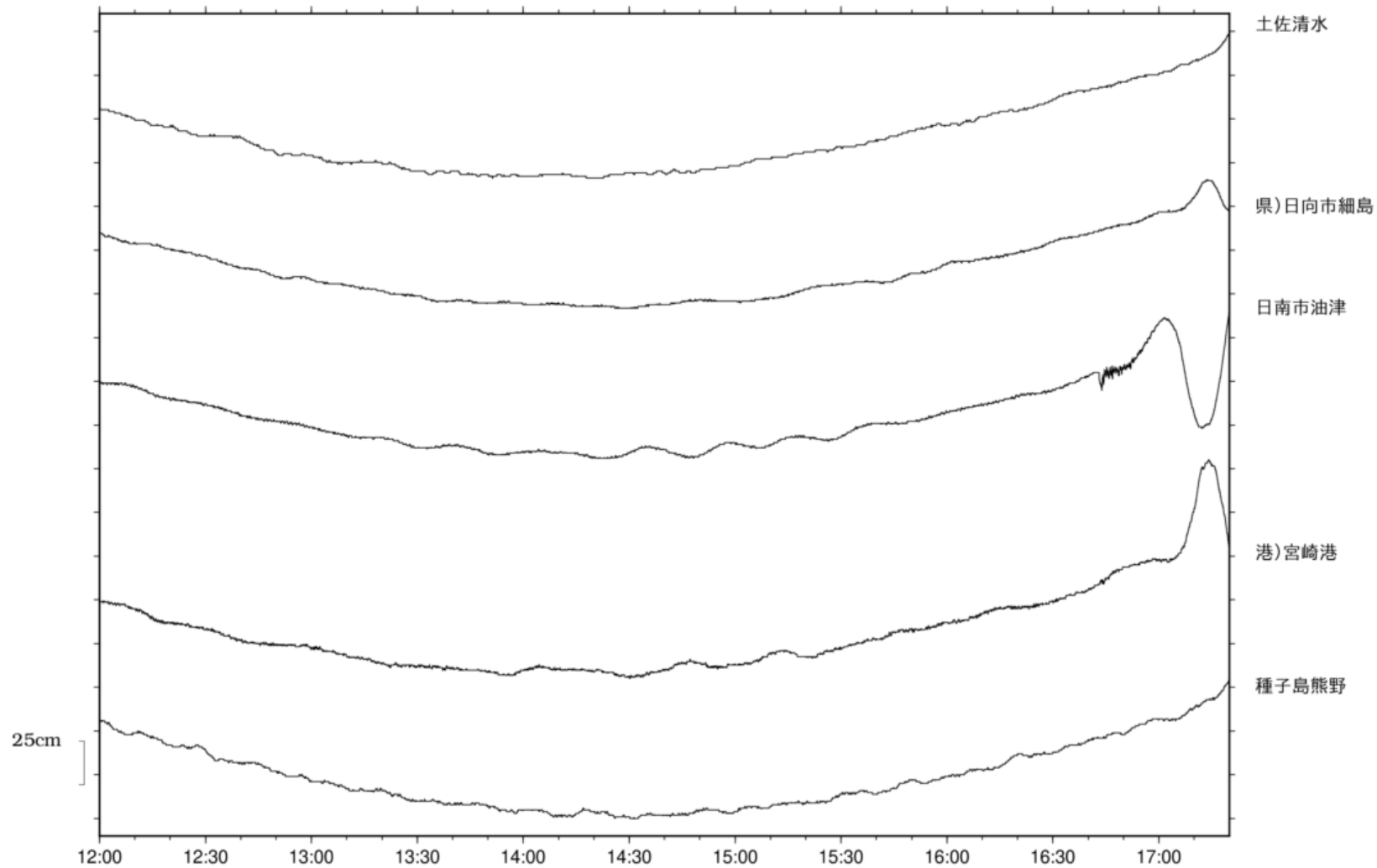
8月8日17時08分発表



最新の情報は、以下のページでご確認ください。

津波の観測状況：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#elem=info&contents=tsunami>

津波波形図



地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	8月8日16時43分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	8月8日16時42分頃
マグニチュード	7.1(速報値)
発生場所	日向灘(宮崎の東南東30km付近) 深さ約 30km
震度	【最大震度6弱】宮崎県の日南市(にちなんし)で震度6弱を観測したほか、東海地方から奄美群島にかけて震度5強～1を観測
地震活動の状況08日 17時15分現在	今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震の発生なし
長周期地震動の観測状況	宮崎県南部山沿いで長周期地震動階級3を観測

防災上の留意事項と今後の見通し

（防災上の留意事項）

津波が発生しており海の中や海岸付近は危険です。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。潮の流れが速い状態が続きますので、注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないようにしてください。揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

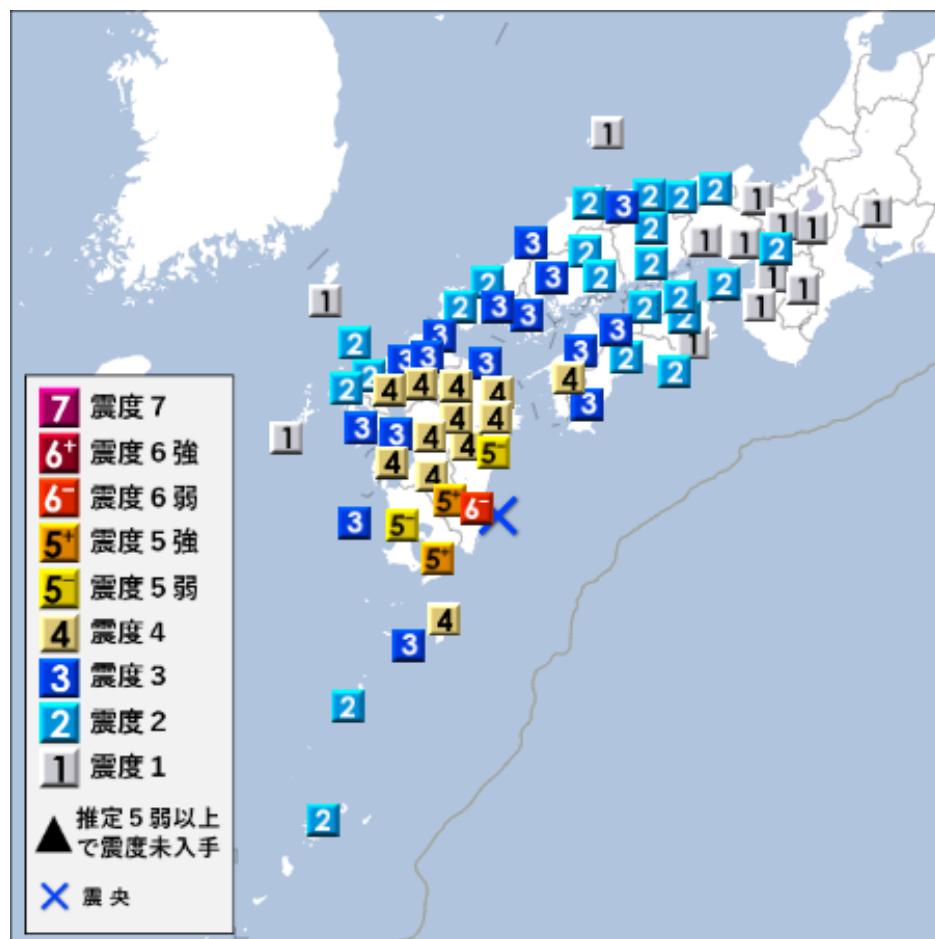
今回の地震の発生により、気象庁は17時00分に南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表しました。17時30分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会および地震防災対策強化地域判定会を開催し、南海トラフで想定されている大規模地震との関連性について調査を行います。南海トラフ地震で被害が想定される地域の方は、個々の状況に応じて、身の安全を守る行動をとってください。

（今後の地震活動の見通し）

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

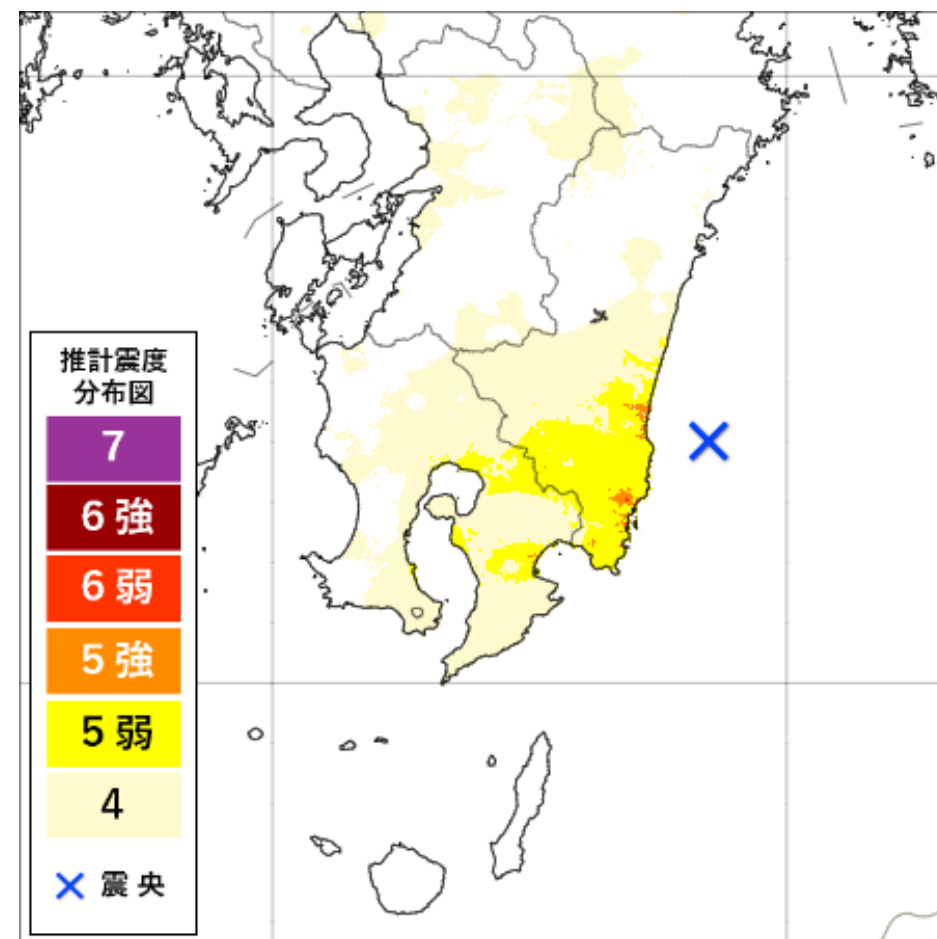
震度分布図・推計震度分布図

【各地域の震度】



8月8日16時55分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

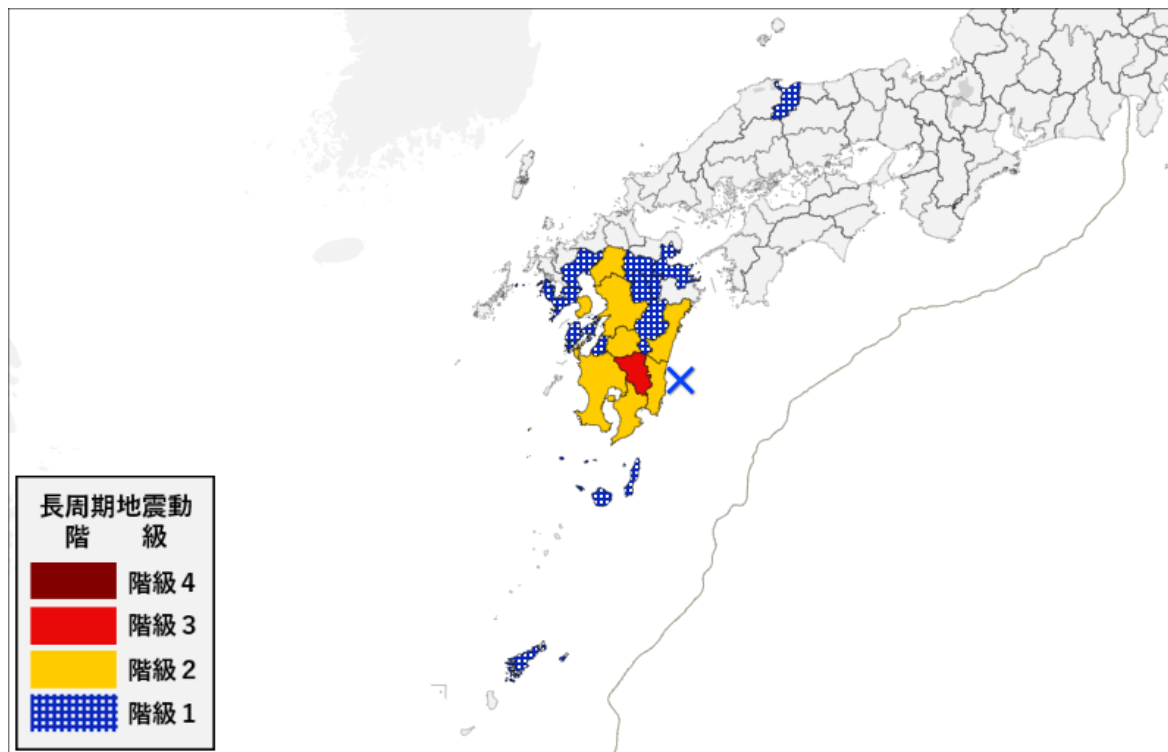
地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

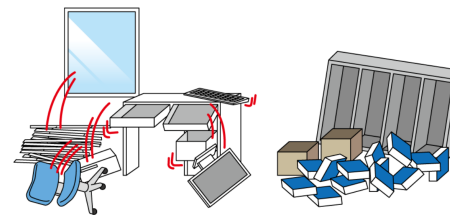
長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称
階級3	宮崎県南部山沿い
階級2	宮崎県北部平野部 宮崎県南部平野部 福岡県筑後 長崎県島原半島 熊本県熊本 熊本県球磨 鹿児島県薩摩 鹿児島県大隅

8月8日16時51分発表



階級4



立っていることができない

階級3



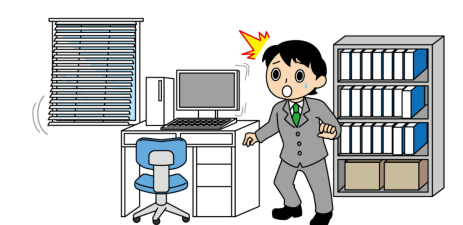
立っていることが困難

階級2



物につかまりたいと感じる

階級1



ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

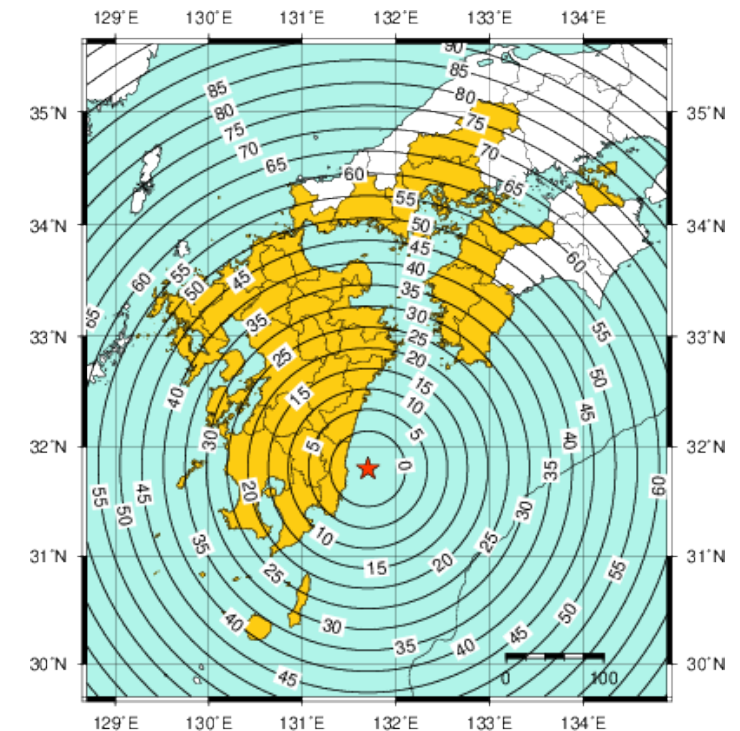
長周期地震動に関する観測情報:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

緊急地震速報の発表状況

緊急地震速報の詳細

提供時刻		経過 時間 (秒)	震源要素					予測した 震度と階級
地震波 検知時刻			震央地名	北緯	東経	深さ	M	
第4報	16時43分09.4秒	5.7	日向灘	31.8	131.7	20km	7.2	※3
※3	震度6弱から6強程度	宮崎県南部平野部						
	震度5強から6弱程度	宮崎県北部平野部						
	震度5強程度	宮崎県北部山沿い						
	震度5弱から5強程度	宮崎県南部山沿い、鹿児島県大隅						
	震度5弱程度	鹿児島県薩摩、大分県南部、熊本県熊本、熊本県天草・芦北						
	震度4から5弱程度	熊本県球磨、熊本県阿蘇、大分県西部						
	震度4程度	大分県中部、鹿児島県種子島、高知県西部、鹿児島県甑島、長崎県島原半島、福岡県筑後、愛媛県南予、大分県北部、長崎県南西部、佐賀県南部、福岡県筑豊、愛媛県中予、山口県東部、福岡県福岡、山口県西部、山口県中部、福岡県北九州、愛媛県東予、佐賀県北部、長崎県北部、広島県南西部、広島県北部						
	震度3から4程度	鹿児島県屋久島、香川県東部						
	長周期地震動階級3	宮崎県北部平野部、鹿児島県薩摩						

警報第1報の対象地域及び主要動到達までの時間



緊急地震速報（警報）を発表した地域 ★ 震源

発表状況の詳細は、以下のページでご確認ください。

緊急地震速報(警報)の発表状況:https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub_hist/index.html

発表した情報などについて

- 津波警報等の発表状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>
- 津波の観測状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#elem=info&contents=tsunami>
- 潮位観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tidelevel>
- 地震情報
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map
- 推計震度分布図
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map
- 長周期地震動に関する観測情報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>
- 緊急地震速報の発表状況
https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/pub_hist/index.html
- 発震機構解
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/mech/top.html>
- 震央分布
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>
- 地震から身を守るために
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html
- 津波から身を守るために
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/index.html
- 気象庁防災情報X(旧Twitter)
https://twitter.com/JMA_bousai



南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について

本日（8 日）19 時 15 分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。その内容について別添のとおりお知らせいたします。

問合せ先：地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室
電話：03-3434-9040

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表

南海トラフ地震の想定震源域では、**新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっている**と考えられます

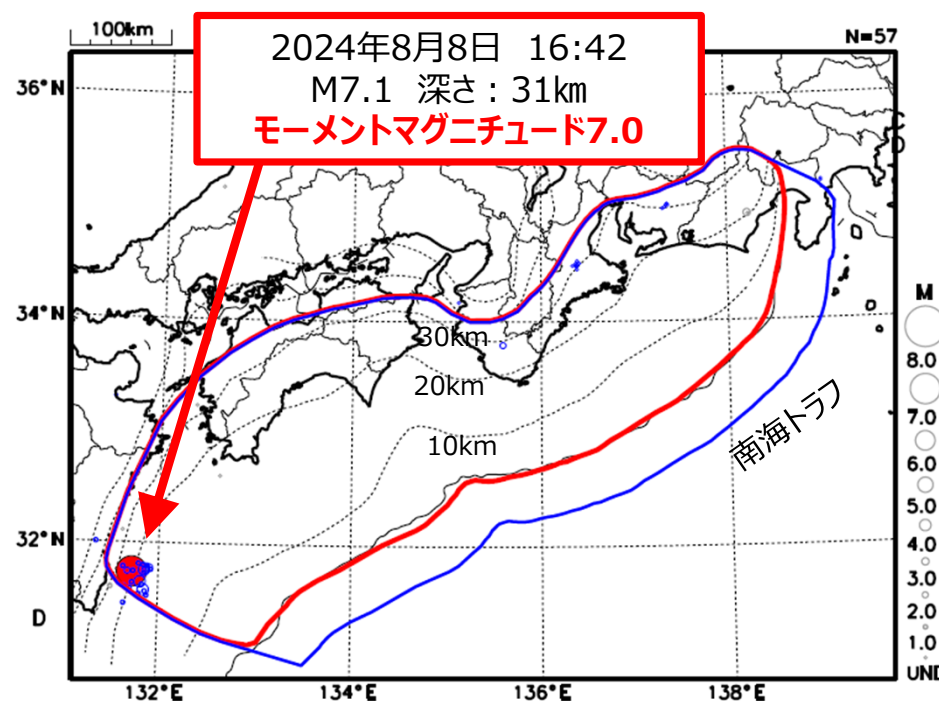
今後、もし大規模地震が発生すると、**強い揺れや高い津波を生じると**考えられます

※新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、特定の期間中に大規模地震が**必ず発生することをお知らせするものではありません**

政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。

今回の地震の発生場所



- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域
- ・黒点線は、フィリピン海プレート上面の深さ

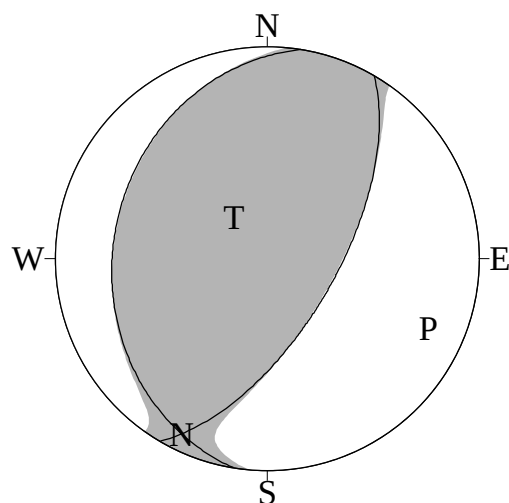
発震機構解

08081642

西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=7.0



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

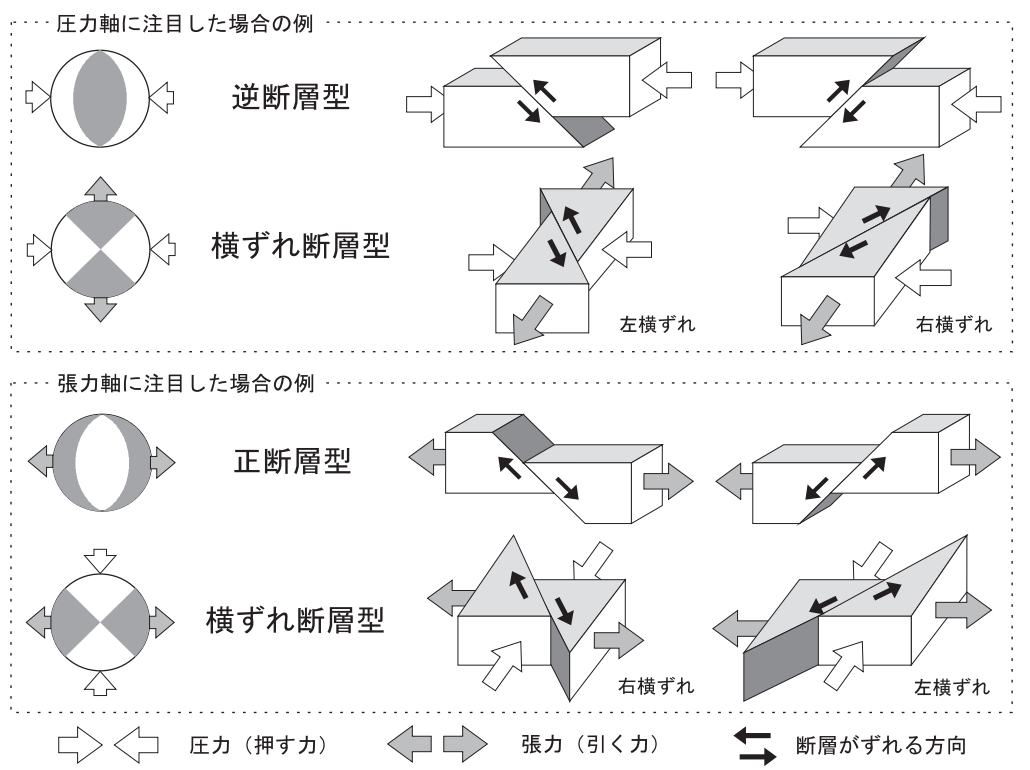
北緯 31度35分

東経 131度43分

深さ 約35km

※セントロイドの位置とは、
地震の断層運動を1点で
代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

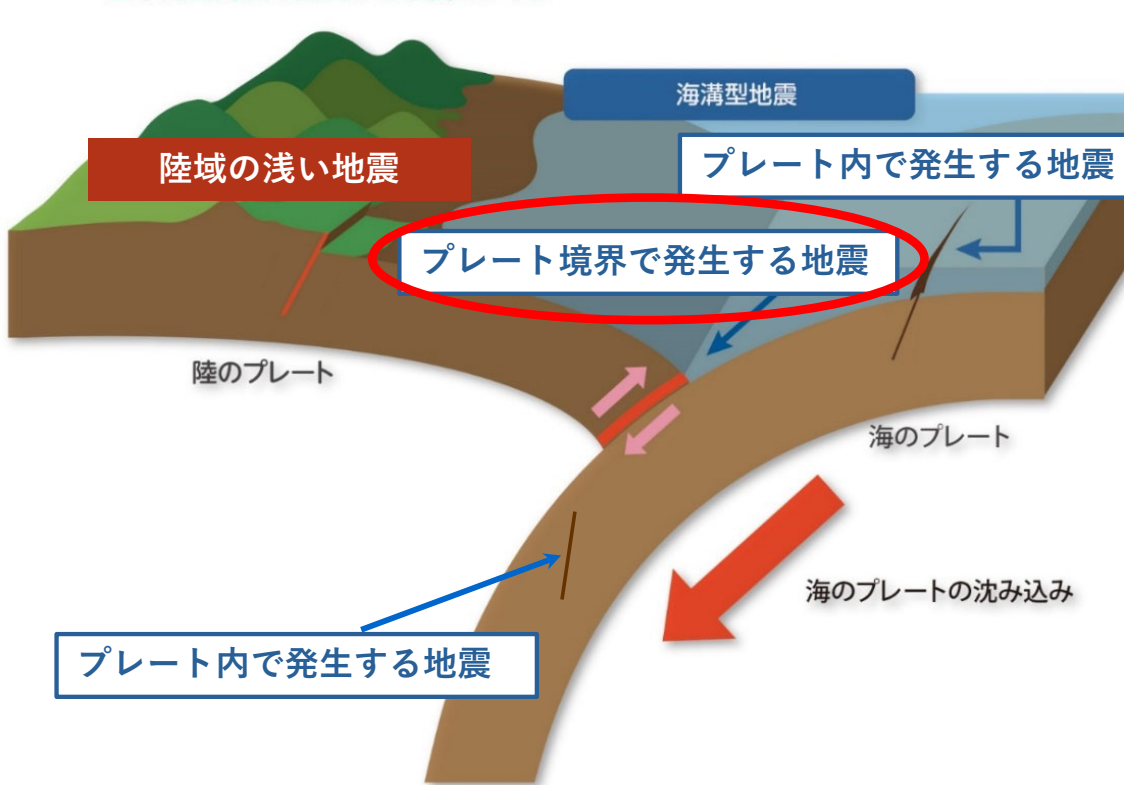


気象庁作成

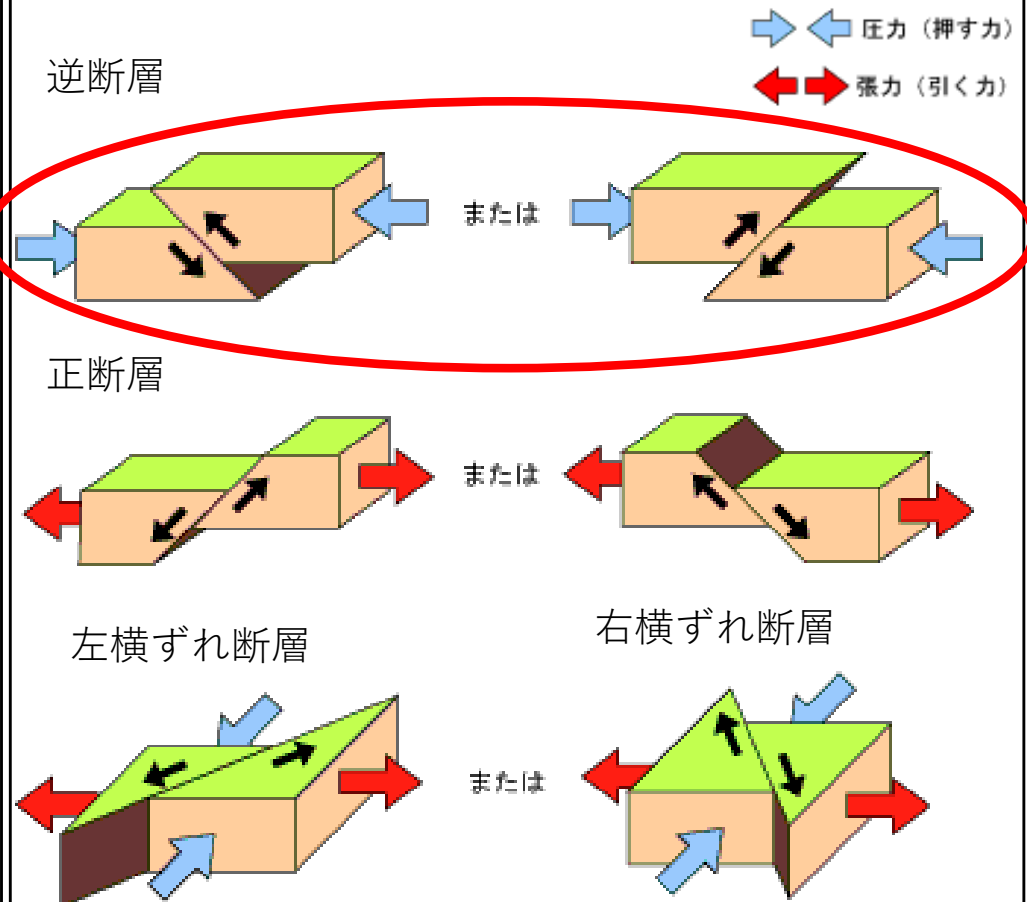
地震の発生メカニズム

今回の地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した、逆断層型の地震

日本列島周辺で発生する地震のタイプ

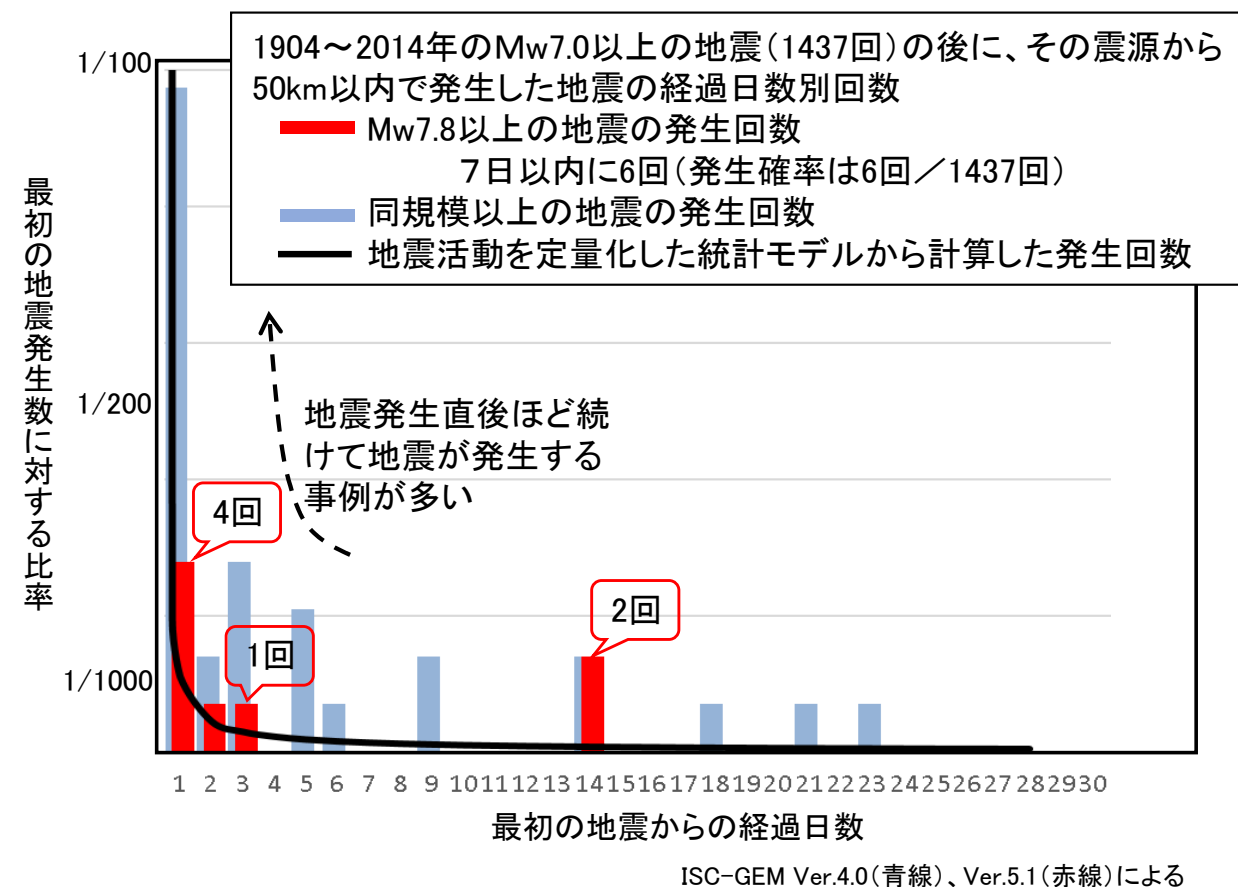


「活断層の地震に備える」より一部改変



地震が続けて発生した事例

(Mw7.0以上の地震発生後にMw8クラス以上の地震が発生した世界の事例)



Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。異常な現象が観測される前の状況^(注)に比べて数倍高くなっています。

(注)30年以内に70～80%の発生可能性があると考えられる状況です。南海トラフ沿いの地域において「30年以内に70～80%」の可能性でM8～9クラスの地震が発生するという確率は、7日以内に換算すると概ね千回に1回程度となります。これと、世界における続けて発生した地震の頻度を比較しています。

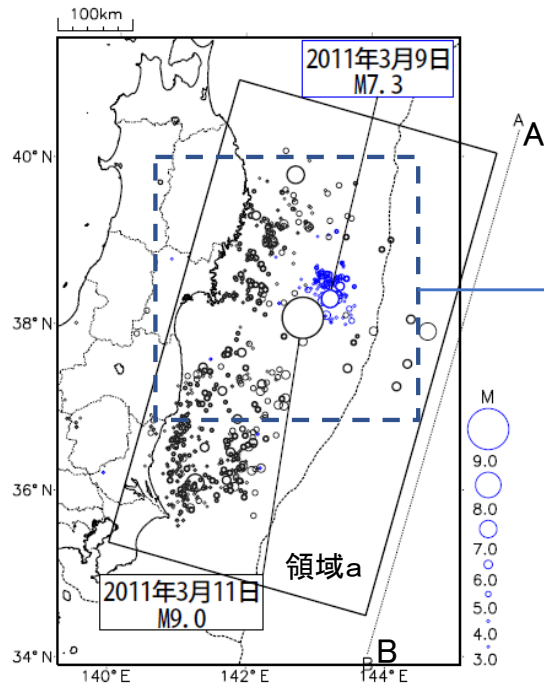
- 地震が続けて発生したこれらの事例から、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。
- 続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

地震が続けて発生した事例 (M7.0以上の地震に引き続いて、M8クラス以上の規模の地震が発生した事例)

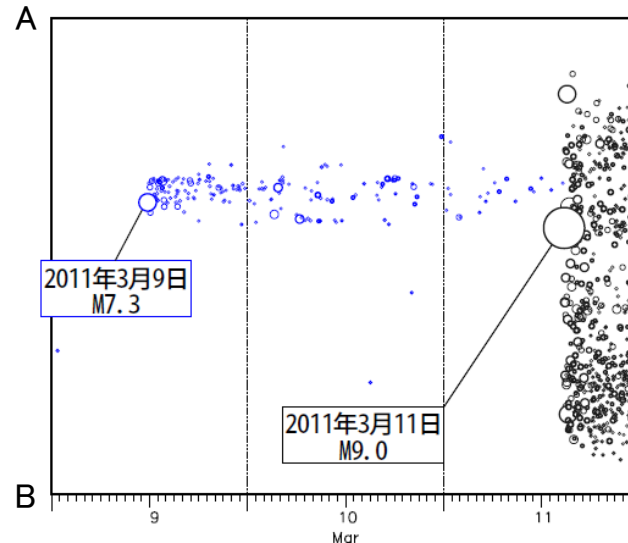
「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の例

震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、 $M \geq 3.0$)
3月11日14時46分以降の地震を黒で表示

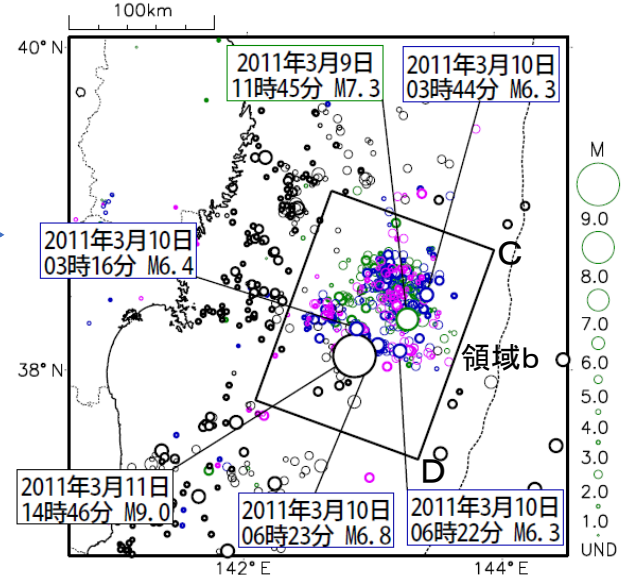


左図領域a内の時空間分布図 (A-B投影)

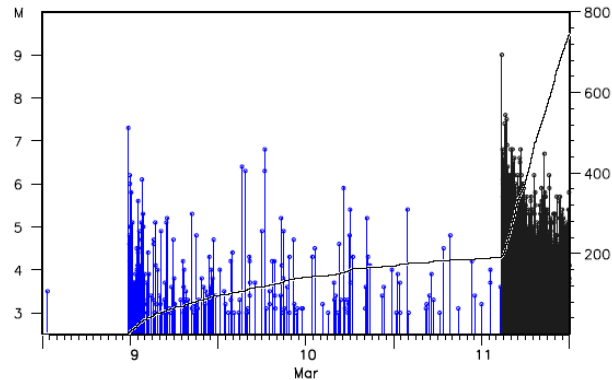


震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、M全て)
緑: 3月9日、青: 3月10日、桃: 3月11日14時45分まで、黒: 3月11日14時46分以降

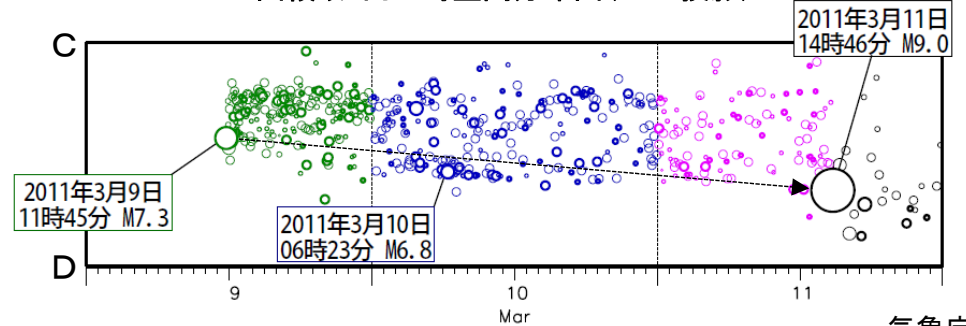


上図領域a内の地震活動経過および回数積算図



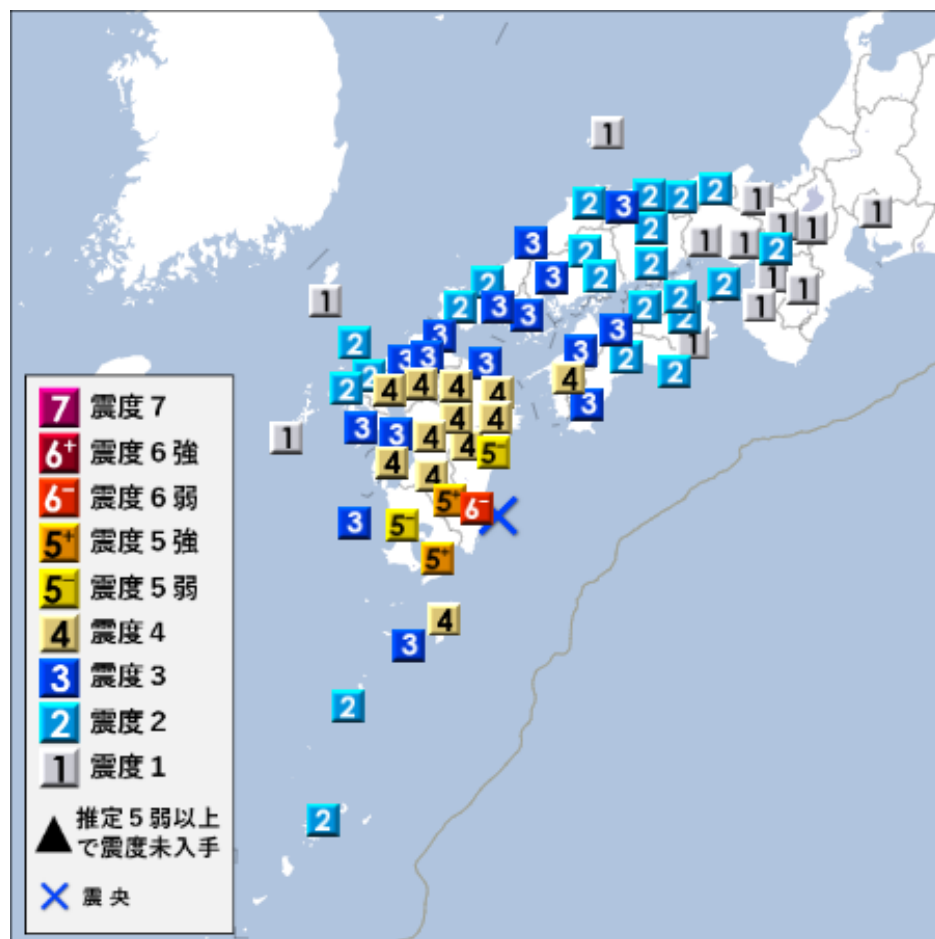
最初の地震から、その後発生したさらに規模の大きな地震の場所へ地震活動が移動しました

上図領域b内の時空間分布図 (C-D投影)



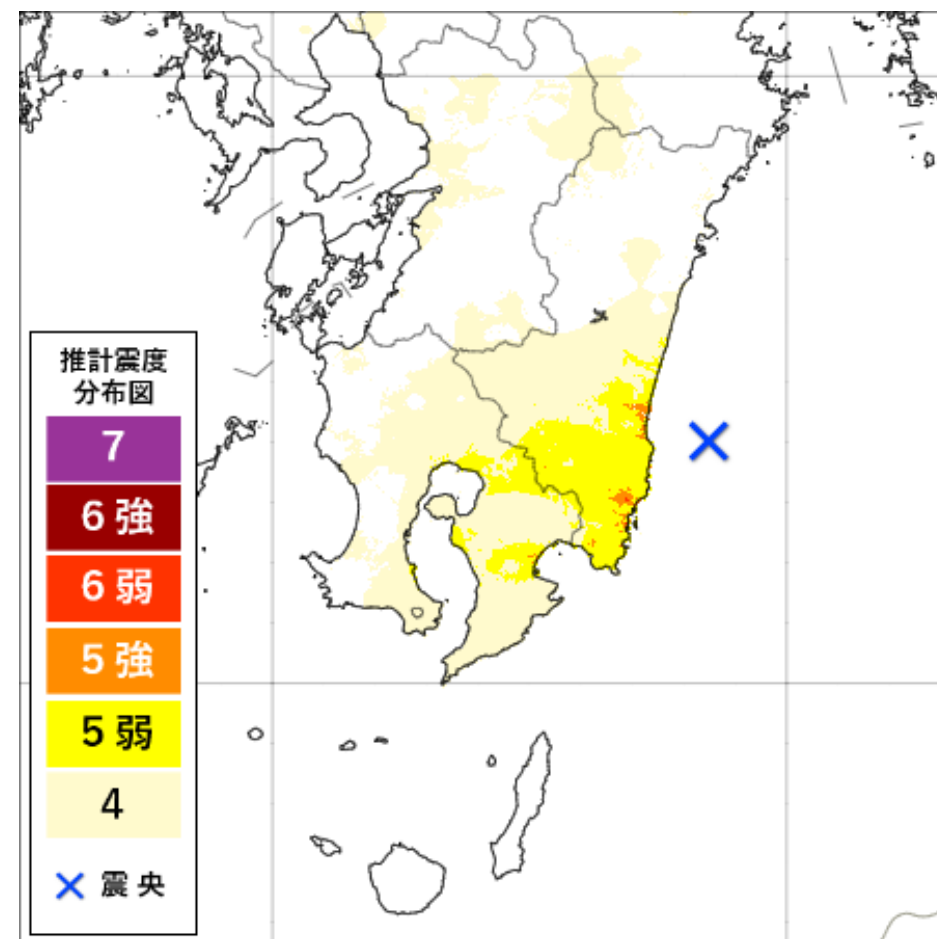
震度分布図・推計震度分布図

【各地域の震度】



8月8日16時55分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

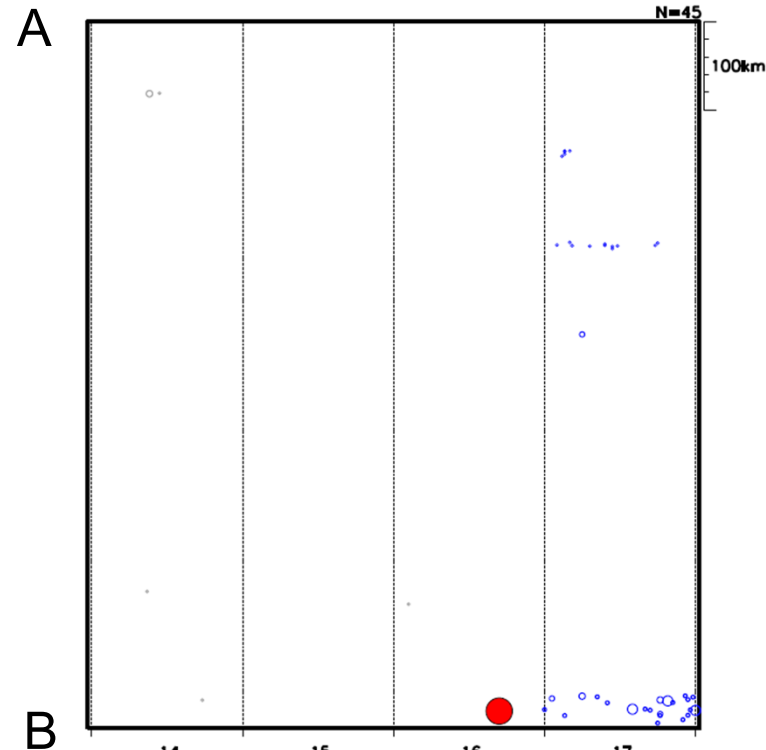
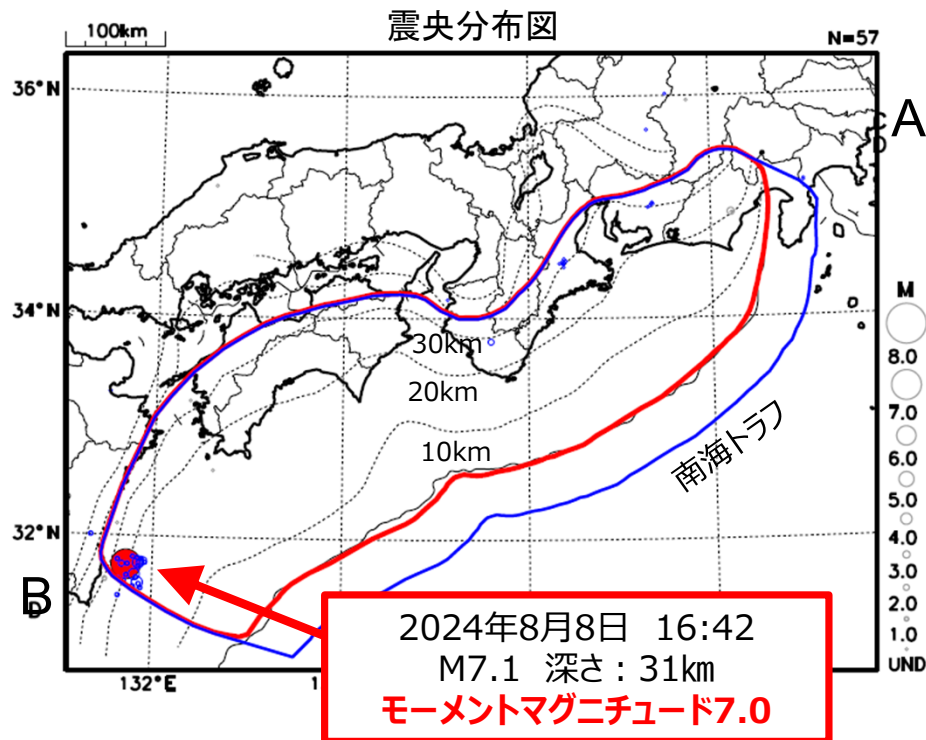
推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

今回の地震活動

(震源の色について) 赤色: 今回の地震、青色: 今回の地震より後に発生した地震、灰色: 今回の地震より前に発生した地震

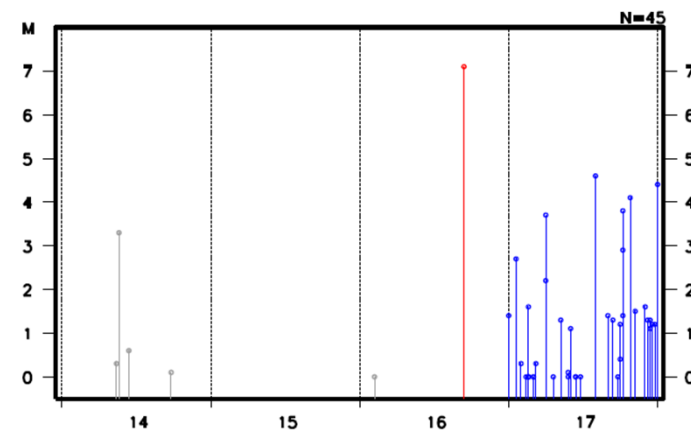
2024年08月08日14時00分～ 2024年08月08日18時00分、
深さ0～150km、M全て

監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



B

監視領域(青線)内の地震活動経過図



[図の説明]

- ・表示している震源は速報値を含みます
 - ・丸の大きさはマグニチュードの大きさを表します
- (震央分布図)
- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域を示します
 - ・黒点線は、Hirose et al. (2008)、Baba et al. (2002) によるフィリピン海プレート上面の深さを示します

(時空間分布図)

- ・横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示します
- ・発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示します

(地震活動経過図)

- ・横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表します

<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含みます
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください

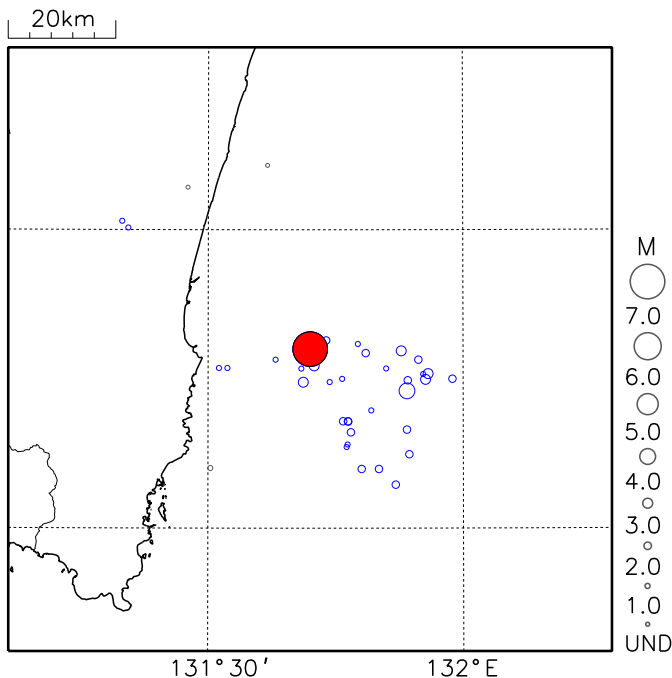
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、 M 全て

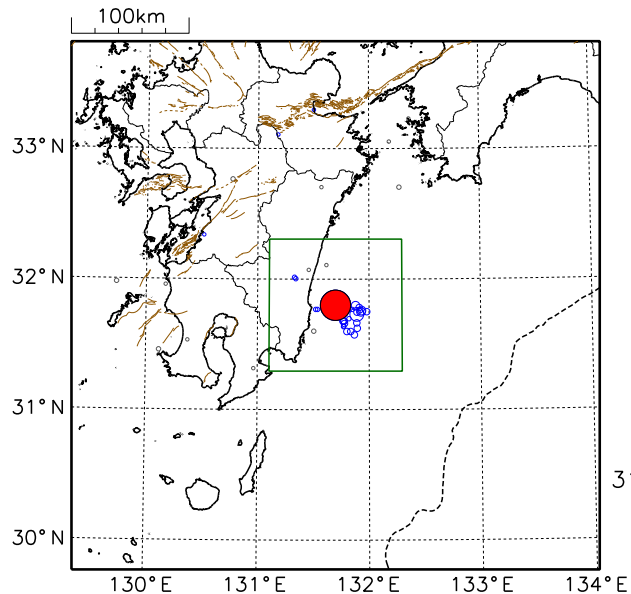
2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（広域図）

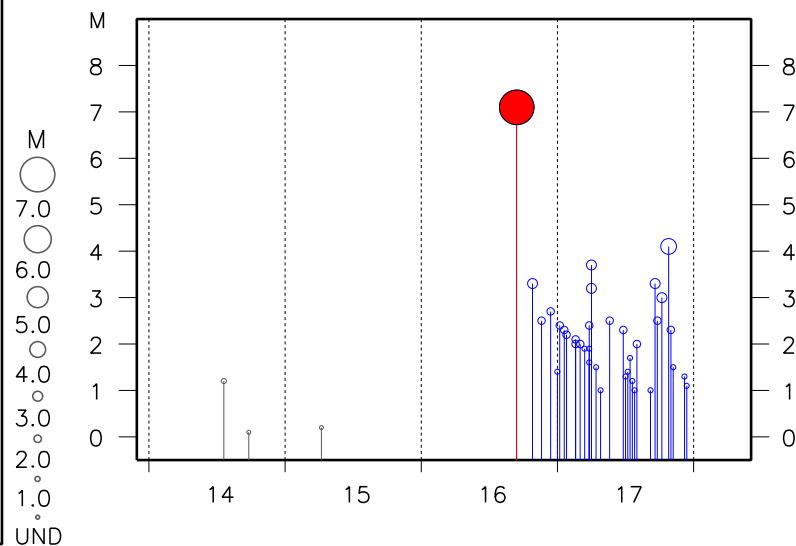
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



(震源の色について) 赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

<資料の利用上の留意点>

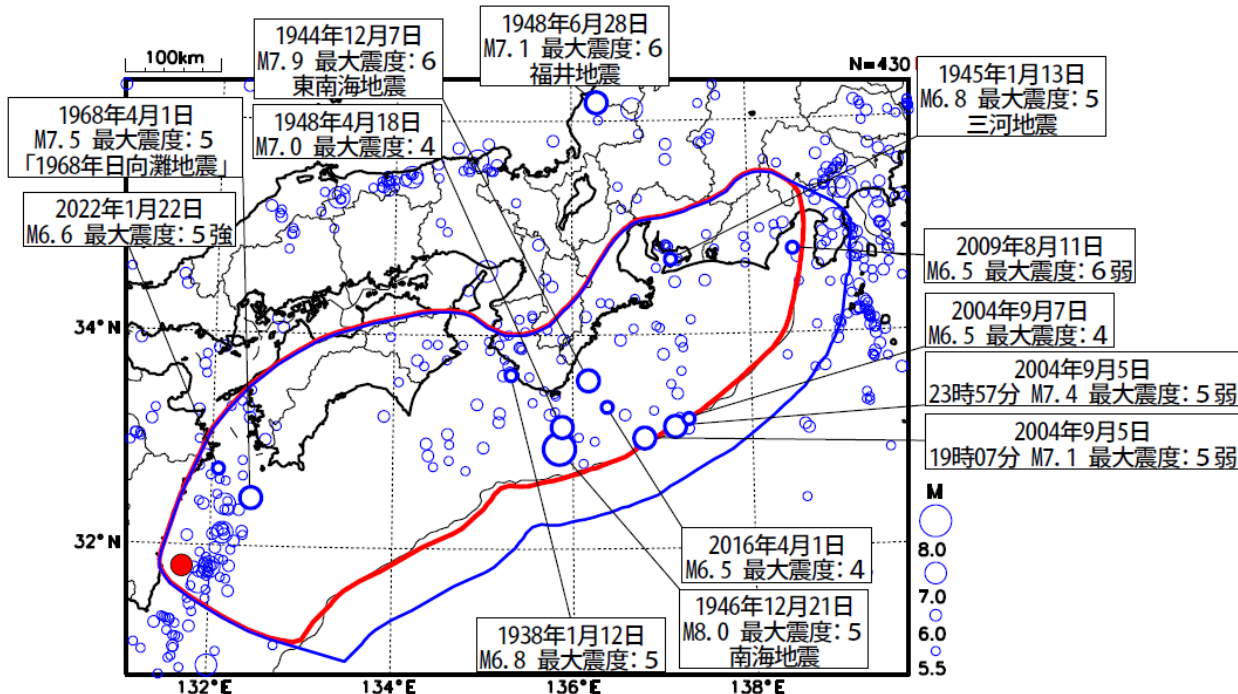
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

南海トラフ沿いの過去の地震活動（1919年以降）

1919年01月01日～2024年08月08日16時44分、
深さ0～100km、M5.5以上

今回の地震を赤色で示す

震央分布図



[図の説明]

- 表示している震源は速報値を含む
- 丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す

(震央分布図)

- 以下の地震に吹き出しを付けた

1999年以前

- 想定震源域(日向灘を除く)で発生したM6.8以上の地震
- 想定震源域(日向灘)で発生したM7.5以上の地震

- 図中で1946年南海地震から3年以内に発生したM7.0以上の地震

2000年以前

- 想定震源域で発生したM6.5以上の地震

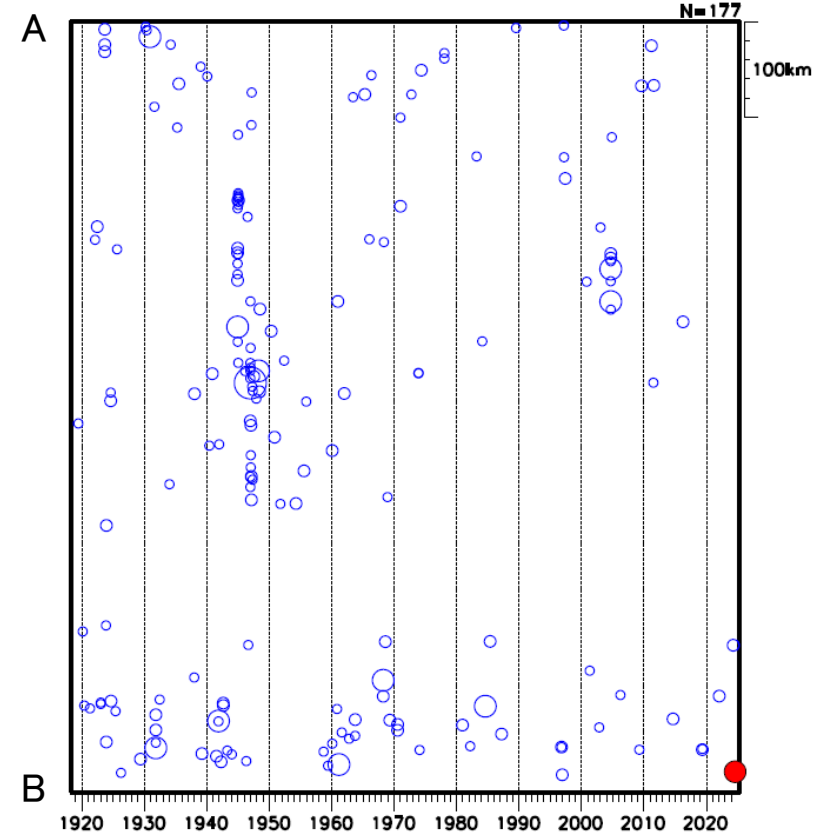
(時空間分布図)

- 横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示す
- 発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示す

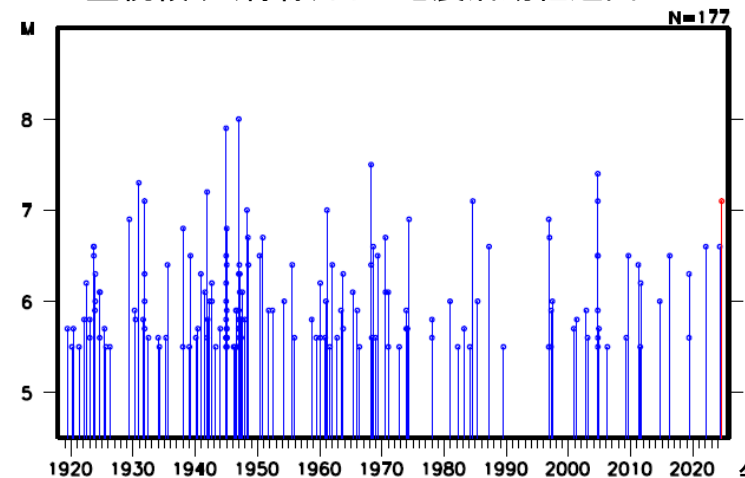
(地震活動経過図)

- 横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す

監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



監視領域(青線)内の地震活動経過図



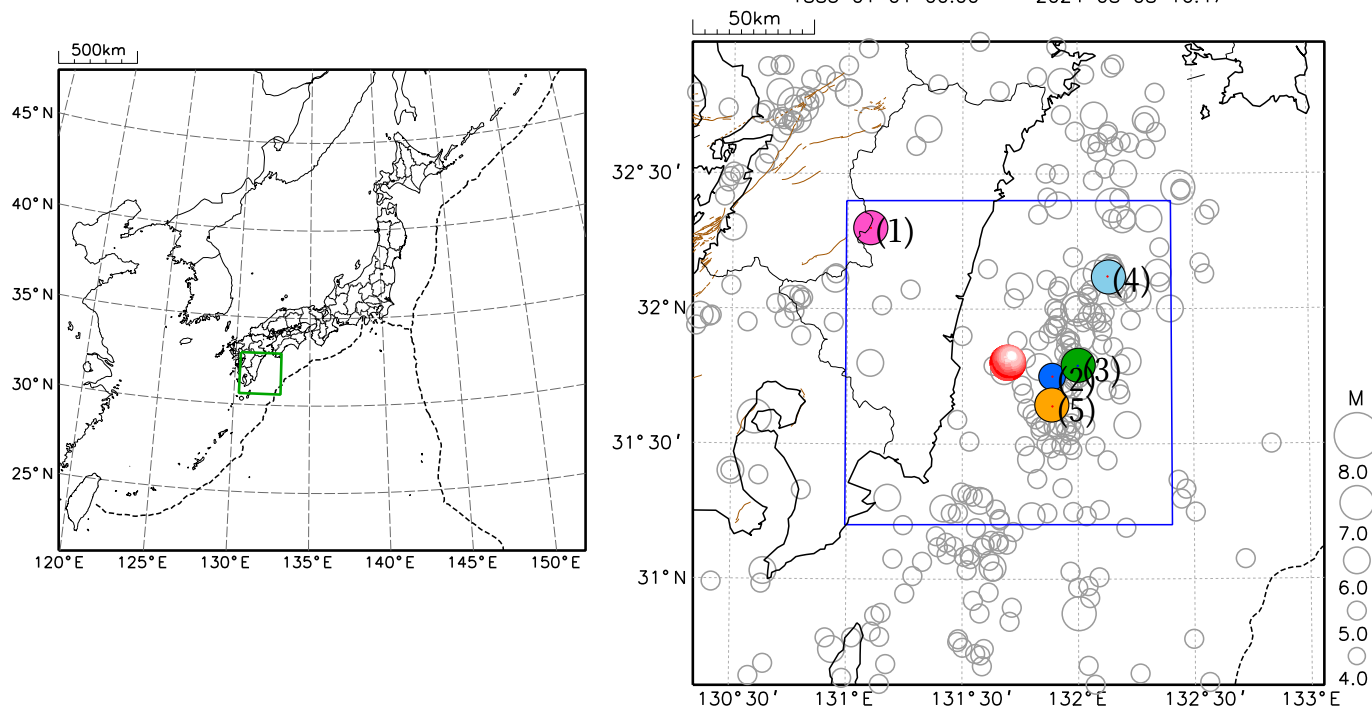
今回の地震周辺の過去の主な地震活動

震央分布図

M ≥ 5.0 , 深さ : 0 ~ 150km

今回の地震を赤く表示

1885 01 01 00:00 -- 2024 08 08 16:47



- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の太破線は、海溝軸を示す。
- ・1885年から1918年の地震の震源要素は、宇津（1982,1985）及び茅野・宇津（2001）による。

＜地震の名称について＞

- ・気象庁が定めた地震の名称を「」で示す。
- ・上記以外で、被害を伴い、広く社会的に地震の名称として知られているものについて、名称（「」を付加しない）を併記している。名称は、「日本の地震活動（第2版）」（地震調査研究推進本部）による。
- ・地震の名称の後ろの[]は、この規模の順に近接して発生した主な地震が他にあることを示す。名称は、最大規模の地震にのみ付加しており、[]内に記載した他の地震が異なる番号で記載される場合がある。

＜資料の利用上の注意点＞

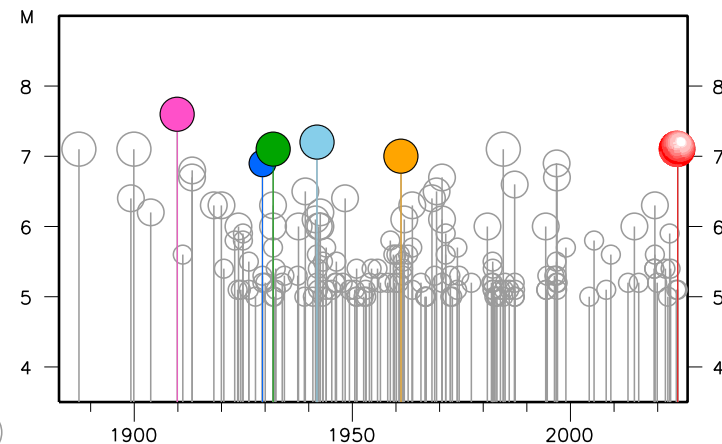
- ・今回の地震は、速報値を表示しており、精査後に修正する場合がある。
- ・過去の地震活動は、M5.0以上の地震、今回の地震は、M4.0以上の地震を表示している。
- ・過去の地震活動は、地域、時期に依らず、全てM5.0以上の地震を表示している。地域や時期により検知能力（※）が異なる場合がある。

※検知能力：特定の地域、時期において、あるM（規模）以上の地震は、概ね全て検知できていると考えられるとする。

この場合、そのMが小さいほど検知能力が高いと言う。

一般的に、同時期であれば、海域より陸域の方が検知能力は高く、同一地域であれば、時期が新しいほど検知能力は高い。

震央分布図の青色矩形内のM-T図



過去の主な地震

主な地震のシンボルの色と番号の対応

桃：(1)，青：(2)，緑：(3)，水：(4)，黄：(5)

(1) 1909年11月10日 M:7.6 宮崎県北部山沿い

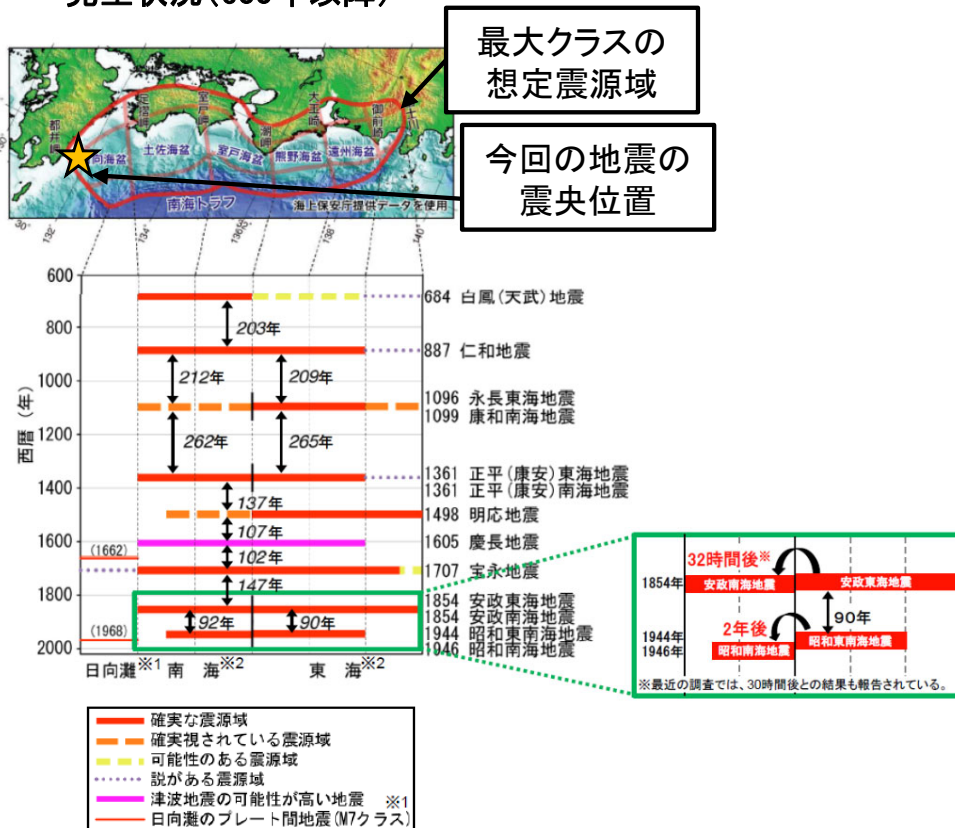
(2) 1929年5月22日 M:6.9 日向灘

(3) 1931年11月2日 M:7.1 日向灘

(4) 1941年11月19日 M:7.2 日向灘

(5) 1961年2月27日 M:7.0 日向灘

●想定される最大規模クラスの地震の震源域・過去の発生状況(600年以降)



●海溝型地震の長期評価

領域または地震名	想定される規模	ランク※3
南海トラフ	M8～9クラス	Ⅲ * ランク

●周辺で想定されている海溝型地震

○今回の地震の震源周辺では、南海トラフで発生する大規模地震が想定されています。

●海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例

○過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

●南海トラフで発生する大規模地震

○南海トラフでは過去繰り返し大規模な地震が発生しています。正平(康安)地震(1361年)以降、南海トラフで起きた6回の大規模地震の平均発生間隔は117年です。しかし、実際に発生した地震の発生間隔は約90年から約150年とばらついています。過去には最短で約90年の間隔で大規模地震が発生した例があります。

○昭和の東南海・南海地震(1944年・1946年)の発生から約80年が経過しており、次の大規模地震発生の切迫性が高まっていると言えます。

●過去に南海トラフで発生した巨大地震の地震の規模

地震名称	地震本部による	内閣府による
宝永地震		8.9
安政東海地震		8.6
安政南海地震		8.7
昭和東南海地震	8.1 ～ 8.2	8.2
昭和南海地震	8.2 ～ 8.5	8.4

注) 地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw)

気象庁作成

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_2.pdf

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部)

<https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について・別添資料」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290825betten.pdf

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会とりまとめ・別冊」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225bessatsu_02.pdf

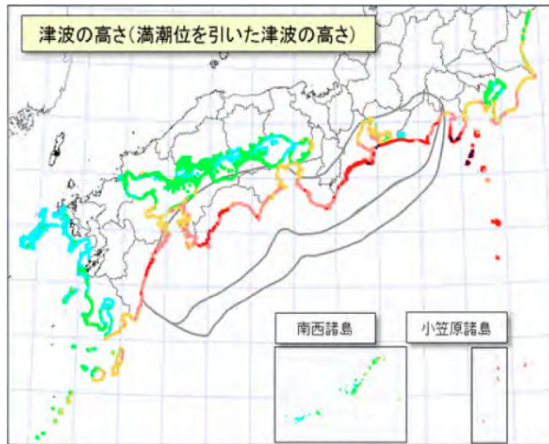
周辺で想定されている海溝型地震

南海トラフの巨大地震で想定される最大クラスの津波高・震度分布

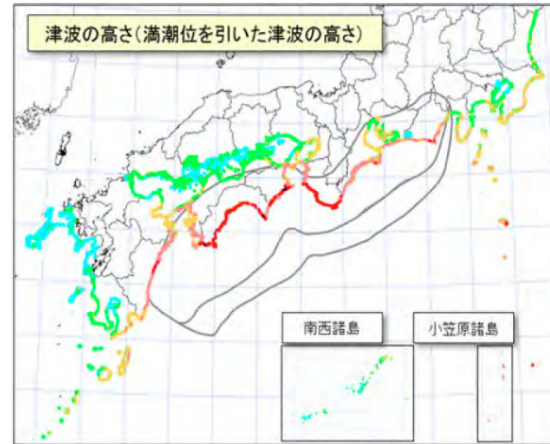
(参考資料)

●想定される津波高（被害想定が実施された4ケースを例示）

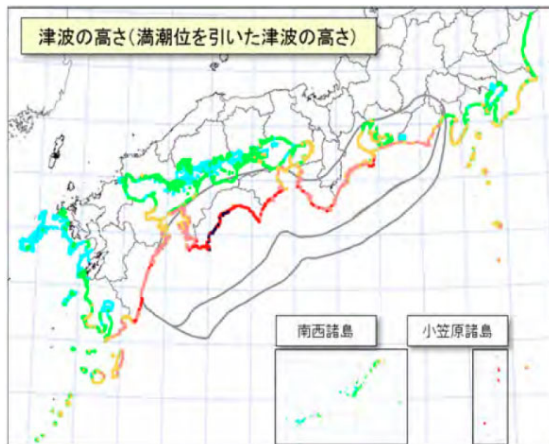
東海地方が大きく被災するケース



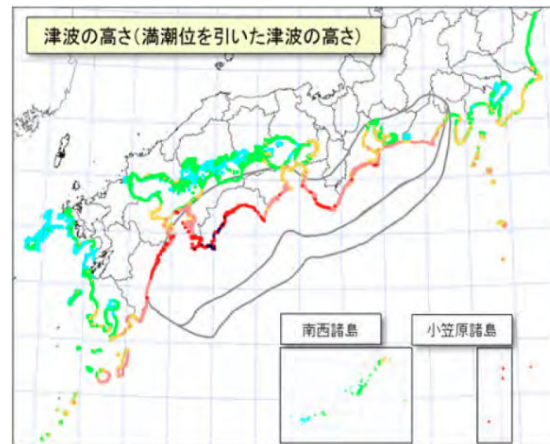
近畿地方が大きく被災するケース



四国地方が大きく被災するケース

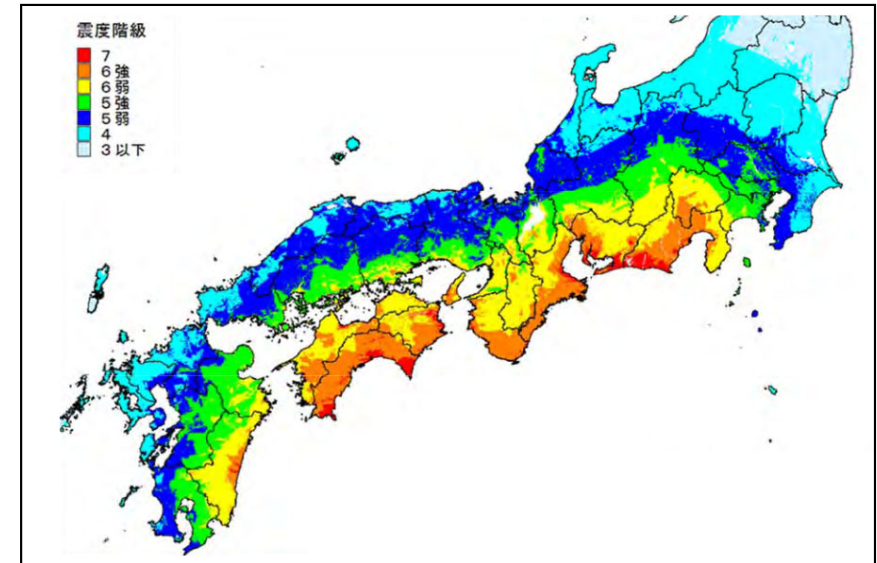


九州地方が大きく被災するケース



●想定される震度分布

複数の想定されるケースの最大値の分布



ここで示した想定される津波高と震度分布は、様々なケースが想定されるうちの一例を示したものです。
これより高い津波、大きな震度となる場合もあります。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの巨大地震による津波高・震度分布等」(内閣府) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku/pdf/1_1.pdf

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

＊ ＊ 見出し ＊ ＊

本日（８日）１６時４３分頃に日向灘を震源とするマグニチュード７．１の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

＊ ＊ 本文 ＊ ＊

本日（８日）１６時４３分頃に日向灘を震源とするマグニチュード７．１の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、ひずみ観測点では、この地震に伴うステップ状の変化が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、西北西・東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード７．０の地震と評価されました。

過去の世界の大規模地震の統計データでは、１９０４年から２０１４年に発生したモーメントマグニチュード７．０以上の地震１，４３７事例のうち、その後同じ領域でモーメントマグニチュード８クラス以上の地震が発生した事例は、最初の地震の発生から７日以内に６事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。このデータには、平成２３年（２０１１年）東北地方太平洋沖地震（モーメントマグニチュード９．０）が発生した２日前に、モーメントマグニチュード７クラスの地震が発生していた事例が含まれます。世界の事例ではモーメントマグニチュード７．０以上の地震発生後に同じ領域で、モーメントマグニチュード８クラス以上の地震が７日以内に発生する頻度は数百回に１回程度となります。

これらのことから、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

南海トラフ地震には多様性があり、大規模地震が発生した場合の震源域は、今回の地震の周辺だけにとどまる場合もあれば、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。

最大規模の地震が発生した場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されています。

今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

＊ ＊ 次回発表予定 ＊ ＊

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。

＊ ＊ （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 ＊ ＊

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件：

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード：

○「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合

- ・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生

- ・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測

- ・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

○「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合

○「巨大地震注意」

- ・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）

- ・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

○「調査終了」（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

情報発表条件：

○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。

日向灘を震源とする地震（８月８日）に関する被害の状況等について（第１報）
（令和６年８月８日２０時３０分とりまとめ）

１ 地震の概要

- （１）発生日時 ８月８日（木）１６時４２分頃
- （２）震源地 日向灘
- （３）震源の深さ 約３１km
- （４）地震の規模 マグニチュード７.１
- （５）県内各地の震度
 - 震度２ 徳島市、石井町、松茂町、北島町、藍住町
 - 震度１ 鳴門市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、美波町
- （６）津波 津波の心配なし
- （７）その他 １７時００分 南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表
１９時１５分 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表

２ 県の体制

- ・ ８月８日 １７時００分【設置】徳島県災害対策連絡本部（本部長：防災対策推進課長）
- ・ ８月８日 １９時１５分【移行】徳島県災害対策警戒本部（本部長：危機管理部長）
- ・ ８月８日 １９時５０分【移行】徳島県災害対策本部（本部長：知事）

３ 市町村の体制

- （１）災害対策本部
 - ・ 阿南市 【設置】
- （２）その他警戒体制
 - ・ 上記他２３市町村 【設置】

４ 避難状況

- （１）避難情報
 - ・ なし
- （２）避難者
 - ・ なし

５ 人的被害

- ・ 被害報告なし

６ 住家被害・非住家被害

- ・ 被害報告なし

７ 道路規制情報

- 高速道路、国及び県管理道路
 - ・ 通行止め箇所なし

８ 公共交通機関

- ・ 全て通常運行

９ 土砂災害

- ・ 被害報告なし

１０ 農林水産関係被害

- ・被害報告なし

１１ 公共土木施設被害

- ・被害報告なし

１２ 臨時休校

- ・なし

１３ 河川の情報

- ・被害報告なし

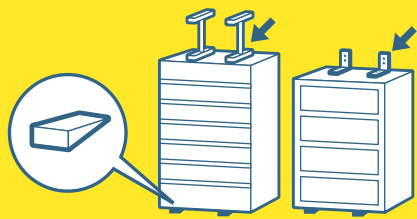
１４ ライフライン等被害（２０時３０分現在）

- ・被害報告なし

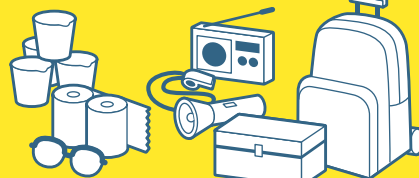


地震の発生に備えよう

□ 家具の固定



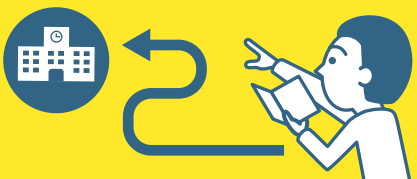
□ 非常用持ち出し袋の準備



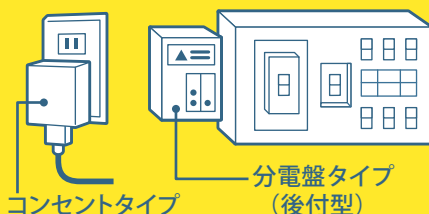
□ 水や食料の備蓄



□ 避難場所や避難経路の確認

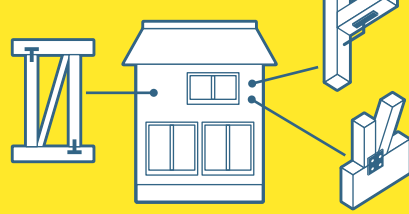


□ 感震ブレーカーの設置



分電盤タイプ
(後付型)

□ 建物の耐震化



自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう

南海トラフ地震 臨時情報

(発表条件)

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

キーワード

調査中

巨大地震警戒

巨大地震注意

調査終了

- 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合

- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合

- 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合

- 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合

- ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合

- 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ地震 関連解説情報

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし臨時情報を発表する場合を除く）

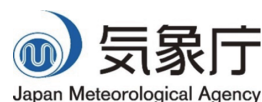


内閣府政策統括官(防災担当)付
参事官(調査・企画担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館
電話：03-5253-2111 (大代表) FAX：03-3501-6820
内閣府ホームページ <http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/>



お問い合わせ先



気象庁地震火山部地震予知情報課

〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号
電話：03-3212-8341 (代表) FAX：03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)
気象庁ホームページ
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>



発行日 令和元年6月

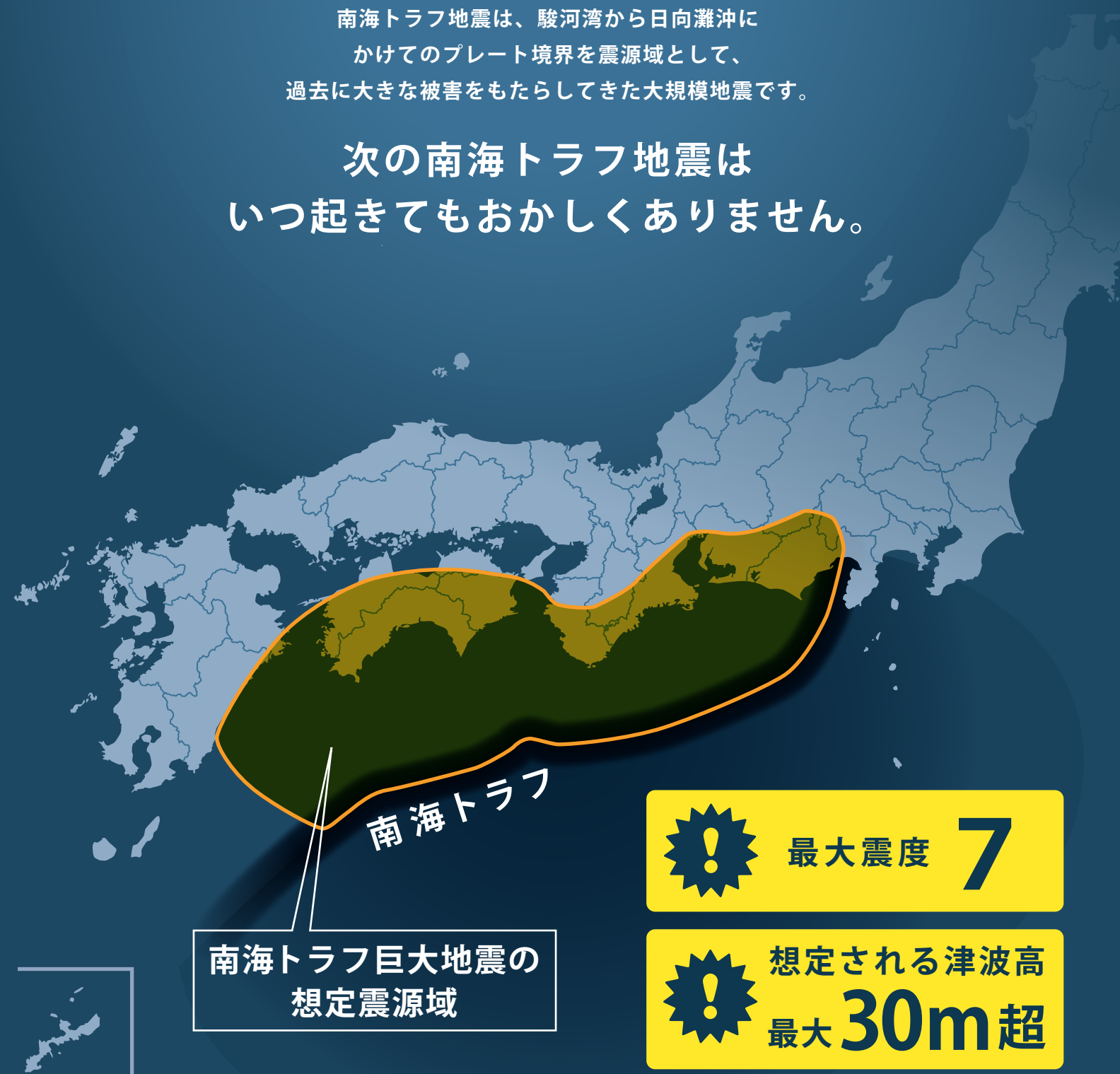
南海トラフ地震

－その時の備え－

知ることであなたと大切な人の命を守る

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震です。

次の南海トラフ地震は
いつ起きてもおかしくありません。



最大震度 **7**

想定される津波高
最大 **30m 超**

南海トラフ巨大地震の
想定震源域

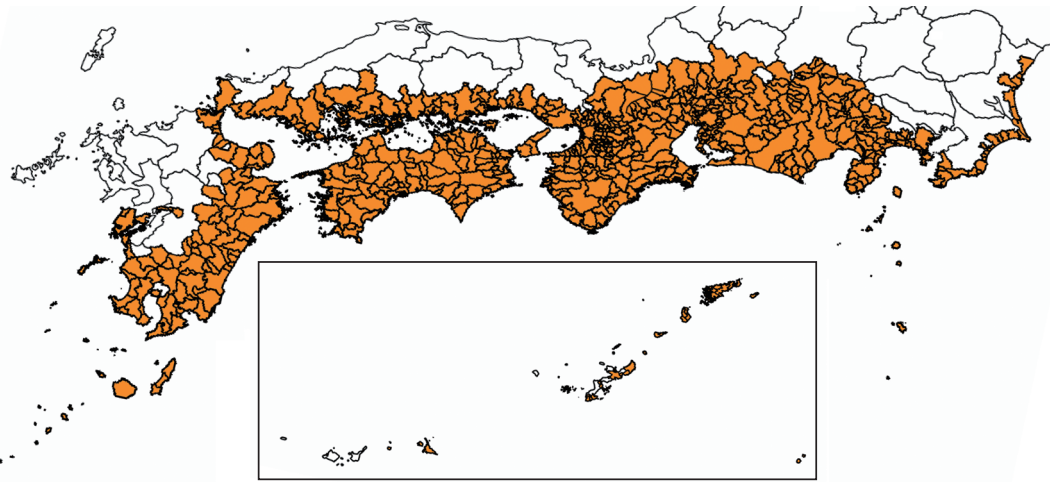
南海トラフ地震の発生に伴い、関東から四国・九州にかけて極めて広い範囲で著しい災害が生じるおそれがあります。特に沿岸部では津波による甚大な被害が生じる可能性があります。大きな被害が見込まれる地域では、南海トラフ地震に備える必要があります。

南海トラフ地震で大きな被害が見込まれる地域

南海トラフ地震
防災対策推進地域

指定基準の概要

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上で海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、過去の被災履歴への配慮

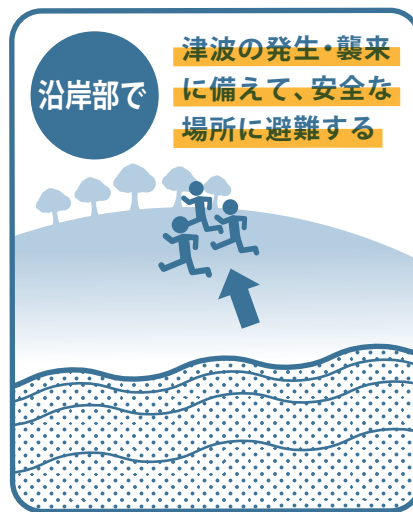


南海トラフ地震が発生したら・・・



地震発生 揺れを感じたらまず身を守る行動を

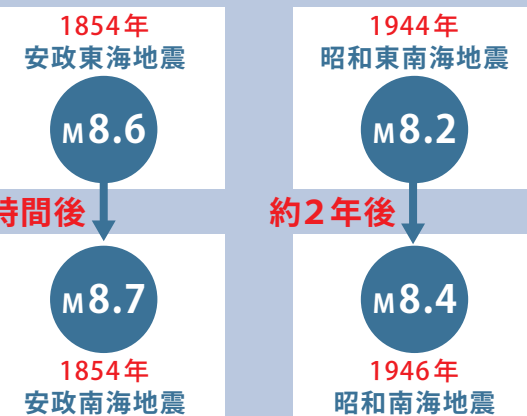
突然の揺れ



地震は一度では終わらないかも

～時間差で起きる場合も～

〔過去事例〕



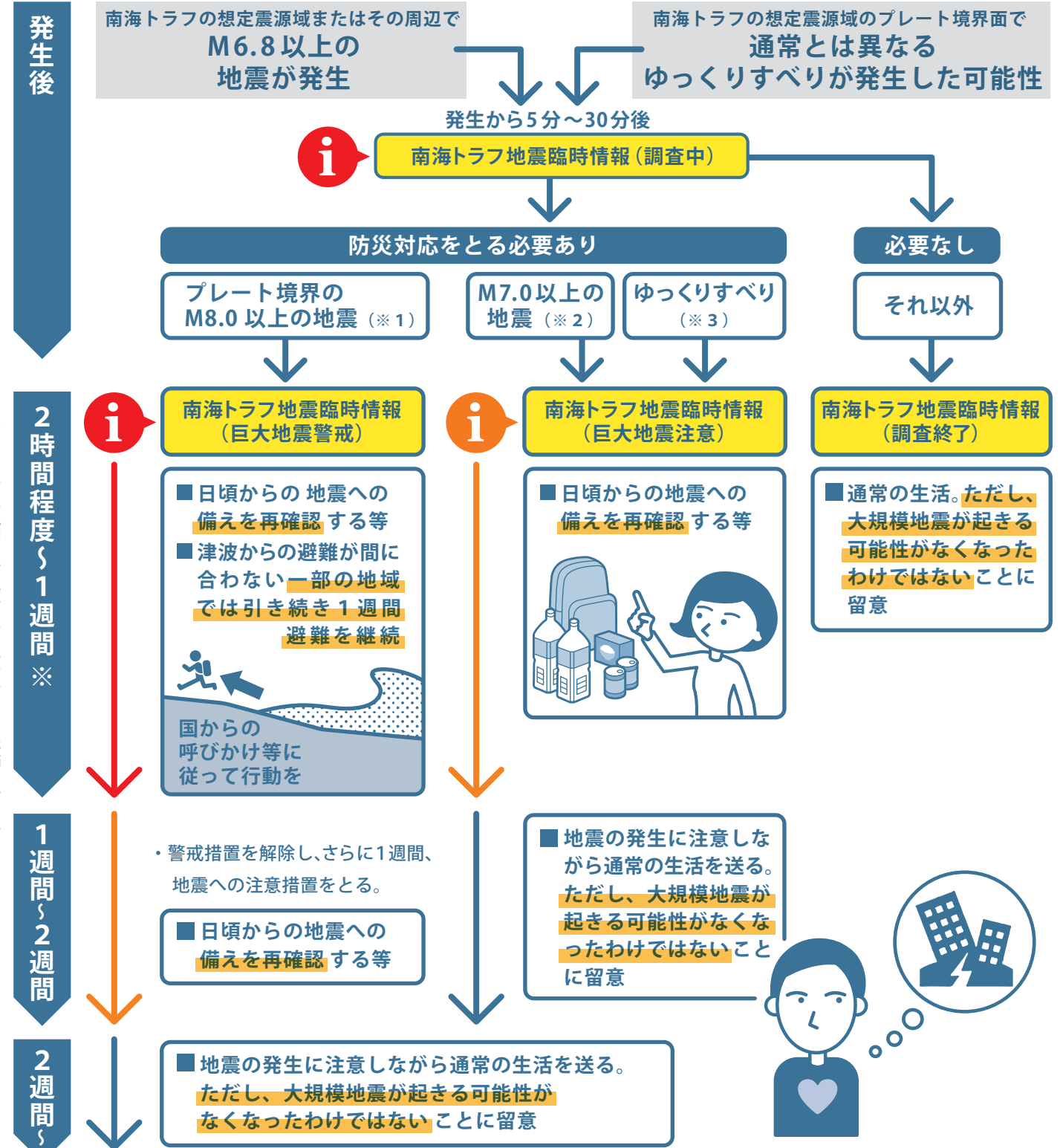
※Mはモーメントマグニチュード
※西側で先に大規模地震が発生する可能性もあります。



時間差で発生する巨大地震に備えましょう ～南海トラフ地震臨時情報～

- ・南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- ・政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

地震発生後の防災対応の流れ



※ゆっくりすべりが観測された場合は、それが収まったと評価されるまで

- ※1 想定震源域のプレート境界で M8.0 以上の地震が発生
- ※2 想定震源域、またはその周辺で M7.0 以上の地震が発生（ただし、プレート境界の M8.0 以上の地震を除く）
- ※3 住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合など

災害は突然に

「自分の命を自分で守る」ために、最新の防災情報を入手し、適切な避難行動をとることが大事です。



「徳島県公式LINE」

今すぐ登録を!

ご家族みんなでご登録を!

最新情報を発信中!!

徳島県公式LINEで

地震や台風などの災害時に

LINE

STEP 1 登録の方法

「QRコード」または「ID検索タブ」から登録をお願いします。

「QRコード」から登録

徳島県公式ラインアカウントQRコード
<https://lin.ee/c8pNyQM>



- 1 上記「QRコード」を読み取ってください。
- 2 徳島県公式ラインアカウントが表示されたら、「追加」を押してください。
- 3 次の画面の「トーク」を押してください。



「ID検索タブ」から登録

- 1 LINE画面下部の「ホーム」を押してください。
- 2 「検索」を押してください。
- 3 「検索」タブに次のIDを入力してください。

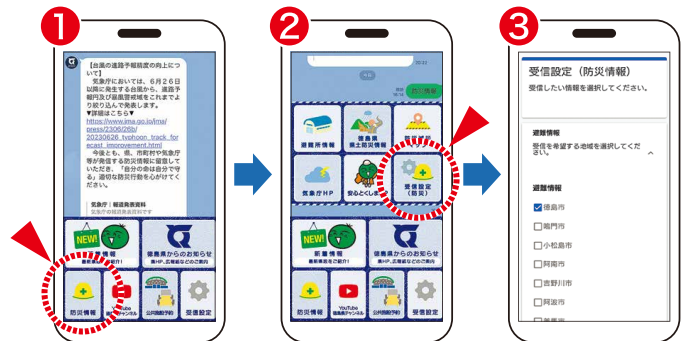
ID @pref_tokushima

STEP 2 受信の設定

お住まいの地域の「気象警報」や「避難指示」などの防災情報が自動的に届きます。

設定方法

- 1 の防災情報を押してください。
- 2 の受信設定 (防災) を押してください。
- 3 受信を希望する地域・情報を選択してください。



配信内容

避難情報 高齢者等避難、避難指示

気象情報 地震速報、津波速報、顕著な大雨に関する情報

土砂災害警戒情報

高潮特別警戒水位情報

河川水位警戒情報

災害時に
情報は
大事です!



※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



徳島県災害時の安否確認サービス すだちくんメール

- 震度5強以上の地震発生時、自動的に安否確認メールを発信。
- 携帯電話・パソコン等から安否入力・確認が可能です。
- 気象警報、地震情報、津波情報を配信します。

¥0

- 無料で登録・利用できます。(通信料は別途必要)
- グループの登録者同士で安否情報を共有できます。



- インターネット接続可能な端末ならいつでも利用可能です。
- 日常的に利用できる機能が充実しています。
(タイムライン/メッセージ/一斉メール等)

登録方法

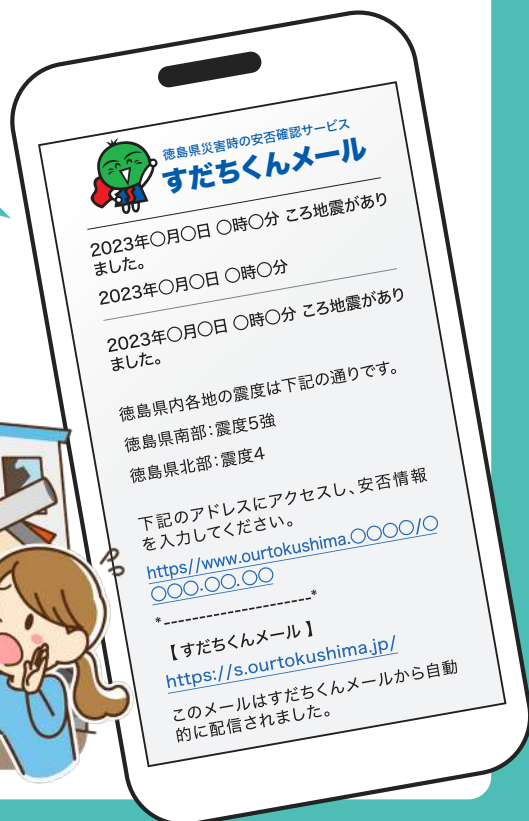
すだちくんメールの利用には登録が必要です。
下記のQRコードをスマホ等で読み込み「新規登録」から登録をお願いします。

「すだちくんメール」トップページ
<https://s.ourtokushima.jp>



安否確認メール

(配信イメージ画像)



徳島県防災・危機管理情報

安心とくしま

防災情報マップでは、お近くの避難所の情報や、災害時に開設している避難所、道路通行規制の情報が確認できます。

水防情報

気象情報や水防情報、ライフラインの状況など、関係機関が発信する防災情報にアクセスできるリンクも掲載しています。



徳島県防災・危機管理情報「安心とくしま」
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/anshin/>



徳島県防災・危機管理情報「安心とくしま」は、災害時に、県民の皆さんの安全・安心に役立つ情報の発信や、関係機関の情報にもアクセスすることができる防災ポータルサイトです。

防災情報マップ



「安心とくしま」の防災情報は
X (@saigai01) からも発信
しています。



防第228号
令和6年8月8日

各市町村長 殿

徳島県危機管理部長
(公 印 省 略)

「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表について（通知）

このことについて、消防庁から、別添のとおり通知がありました。

つきましては、今後一週間程度、平時よりも後発地震の発生する可能性が高まっていることを踏まえ、地域住民に迅速に伝えとともに、避難態勢の準備等について御対応いただきますようお願いいたします。

<担当>

徳島県危機管理部 防災対策推進課
災害対策企画担当

電話 088-621-2298

email bousaitaisakusuishinka@pref.tokushima.lg.jp

「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表について

南海トラフ地震防災対策推進地域
都 府 県 防 災 担 当 課 各位
(同地域以外の道県については参考)

令和 6 年 8 月 8 日
消 防 庁

本日（8日）19時15分、別添のとおり、気象庁が「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」発表しましたのでお知らせします。

つきましては、南海トラフ地震防災対策推進地域に係る都府県におかれましては、今後一週間程度、平時よりも後発地震の発生する可能性が高まっていることを踏まえ、地域住民に迅速に伝えるとともに、避難態勢の準備等の呼びかけをお願いします。

なお、今後気象庁等が発表する最新の情報等に留意願います。

また、本通知の内容について同地域に係る貴管内市町村へ迅速に周知をお願いします。

問い合わせ先
消防庁防災課
TEL 03-5253-7525（直通）
FAX 03-5253-7535
消防庁応急対策室
TEL 03-5253-7527（直通）
FAX 03-5253-7537

***** 情報種別 *****

【標題】 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

【発表時刻】 令和6年08月08日19時15分

【基点時刻】 令和6年08月08日19時15分

【識別情報】 20240808191500

【情報形態】 発表

【スキーマの運用種別情報】 南海トラフ地震に関連する情報 【スキーマの運用種別情報のバージョン番号】 1.1_0

【見出し文】

本日（8日）16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

***** 内容本文 *****

【南海トラフ地震に関連する情報】 【情報名称】 南海トラフ地震臨時情報【情報種別番号名】 巨大地震注意【情報種別番号コード】 130【本文】

本日（8日）16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、ひずみ観測点では、この地震に伴うステップ状の変化が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、西北西・東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード7.0の地震と評価されました。

過去の世界の大規模地震の統計データでは、1904年から2014年に発生したモーメントマグニチュード7.0以上の地震1,437事例のうち、その後同じ領域でモーメントマグニチュード8クラス以上の地震が発生した事例は、最初の地震の発生から7日以内に6事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。このデータには、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（モーメントマグニチュード9.0）が発生した2日前に、モーメントマグニチュード7クラスの地震が発生していた事例が含まれます。世界の事例ではモーメントマグニチュード7.0以上の地震発生後に同じ領域で、モーメントマグニチュード8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数百回に1回程度となります。

これらのことから、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

南海トラフ地震には多様性があり、大規模地震が発生した場合の震源域は、今回の地震の周辺だけにとどまる場合もあれば、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。

最大規模の地震が発生した場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されています。

今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

【次回発表予定】

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。

【参考情報】

＊ ＊ （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 ＊ ＊

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件：

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した

場合、または調査を継続している場合

○観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード：

○「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合

・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生

・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測

・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

○「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合

○「巨大地震注意」

・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）

・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

○「調査終了」（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

情報発表条件：

○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。